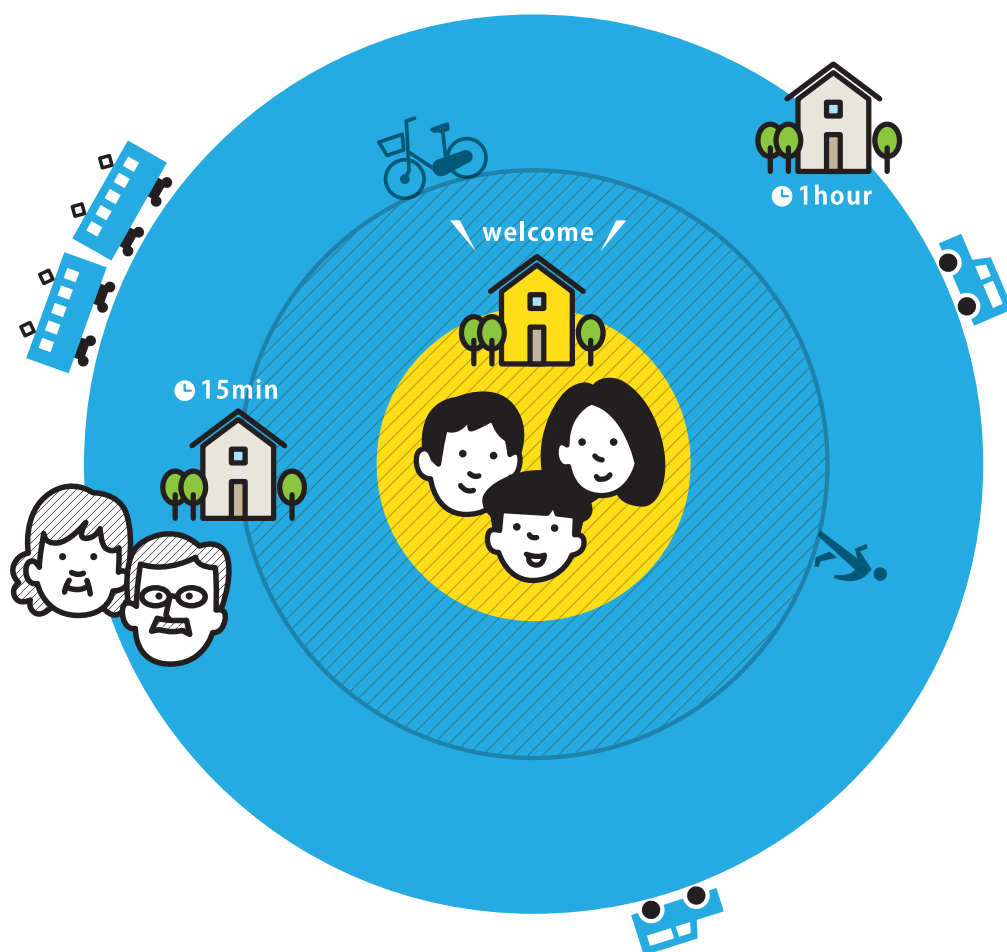


# 共働き家族とサポートする親 そのくらしと意識

調査報告書

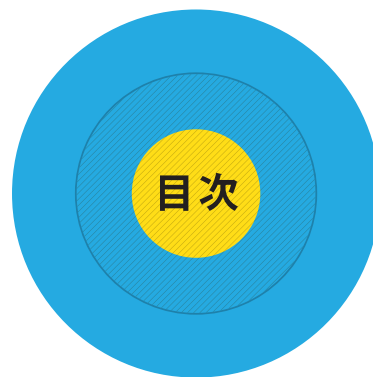


旭化成ホームズ株式会社

くらしノバージョン研究所

共働き家族研究所





## 第1章 はじめに(研究の背景と調査概要)

02 1-1 研究の背景

06 1-2 調査概要

## 第2章 すまいの場所

10 2-1 自宅でサポートを受ける場合

近居・準近居の約7~8割が実家との距離を気にかけて、すまいの場所を決めている

12 2-2 すまいの場所を決めた理由 「近居」は「妻の実家に近い」こと、「遠居」は「夫の職場に近い」こと

14 2-3 すまいの場所を決定する際、6~8割は事前に親に相談している

16 2-4 住宅取得の際、近居の半分以上が親から支援を受けている

## 第3章 「暮らしサポート」の実態

20 3-1 「暮らしサポート」のきっかけは、妻が自分(妻)の親にお願いする事が多い

22 3-2 自宅での「暮らしサポート」は「妻の親」中心で行われている

23 3-3 親子の居住距離により、「暮らしサポート」のかたがちが変わる

26 3-4 「子育てサポート」は、ほぼ100%行われ「病気・遊び・食事」を母親中心で行っている

30 3-5 「家事サポート」は、近居より遠居が多い

34 3-6 親から「暮らしサポート」を上手に受けるために、自宅に必要な事

## 第4章 「暮らしサポート」における親の気持ち・子の気持ち

38 4-1 「暮らしサポート」を支えているのは、サポートしたい親の「子を思う気持ち」

41 4-2 「暮らしサポート」時の、親の気持ち、子の気持ち

46 4-3 「暮らしサポート」成功のコツは、子世帯宅における「親の立ち入りをコントロールすること」

## 第5章 「暮らしサポート」にみる親・子・孫の幸せな光景

52 5-1 親は、「孫との交流」を喜び、「自身の生活に張り合いが生まれた」と感じている

54 5-2 子は、「祖父母と孫の交流」などを喜び、将来、親を介護する気持ちも高まっている

57 5-3 「暮らしサポート」は、孫が社会性を身につけるよい機会となる

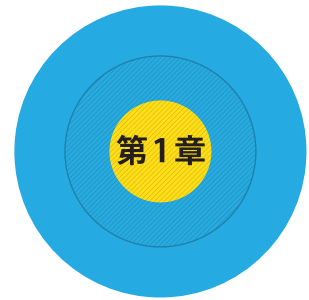
58 5-4 「暮らしサポート」から、親・子・孫、みんなに笑顔が生まれる

## 第6章 良い家族関係をつくる、共働き家族のための「近居プラン」・「遠居プラン」

62 「近居プラン」 子育てサポートは1階LDKで。近くに住む親子コラボライフ

64 「遠居プラン」 普段は単世帯。時々二世帯。離れて住む親子コラボライフ





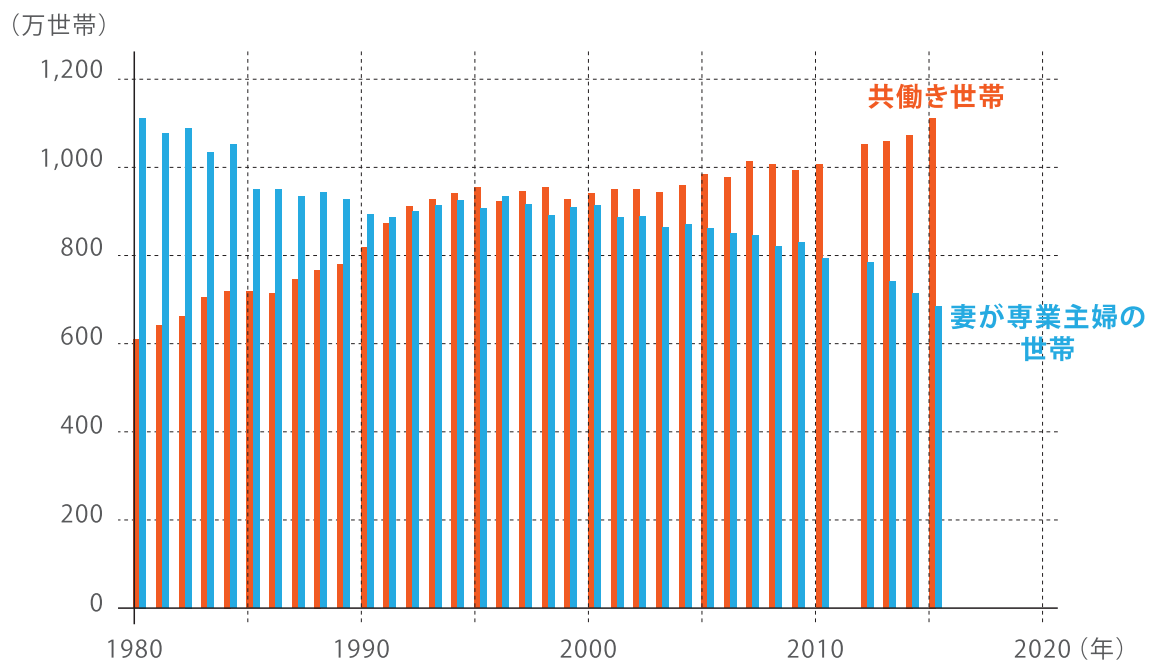
## はじめに (研究の背景と調査概要)

昨今、夫婦が共に働きながら生活するのが一般的な社会となりつつあります。そして、子どもを産み育てながら共働きを続ける家族も増えてきましたが、特に子どもが小さなうちは毎日子育てや仕事に忙しく過ごすこととなります。しかし、子育て中の共働き家族を社会全体で支える仕組みは、まだまだ十分とはいえません。こうした中、子育て中の共働き家族を支える大きな力となっているのが、親の育児・家事サポートです。本報告書では、今どきの家族のあり方となりつつある「共働き家族とサポートする親」について、その暮らしと意識を明らかにし、こうした暮らしに適した住まいのあり方を提案します。

## 1-1 研究の背景

### 共働き家族が増えている

1980年から、2015年までの「妻が専業主婦の世帯数」と「共働き世帯数」の推移をみると、1990年代に「妻が専業主婦の世帯」の数を「共働き世帯」の数が上回り、その数は逆転しました。そして2015年には共働き世帯が1,100万世帯に達しました。2010年代以降、「共働き世帯」の増加は加速しており、今後もこの傾向は続くと予測されます。



出典：男女協同参画白書

1980年から2001年は総務省統計局「労働力調査特別調査」、

2002年以降は総務省統計局「労働力調査(詳細集計)(年平均)」より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成

※専業主婦世帯：夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者の世帯

※共働き世帯：夫婦ともに非農林業雇用者の世帯

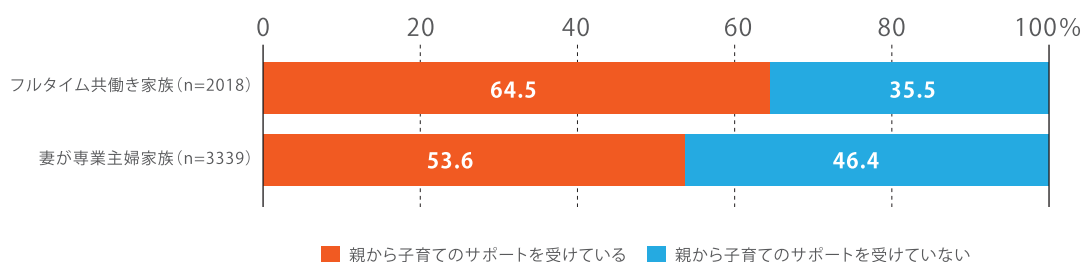
## 共働き家族は、親からの「家事・子育て」のお手伝いを必要としている

共働き家族、なかでも子育て中の共働き家族は毎日が大忙しです。仕事に家事に子育てに、平日はまさに、息つく暇もありません。毎日、フル回転で仕事、家事、子育てをこなす共働き夫婦ですが、仕事と家庭の両立を続けていくために、何を必要としているのでしょうか。

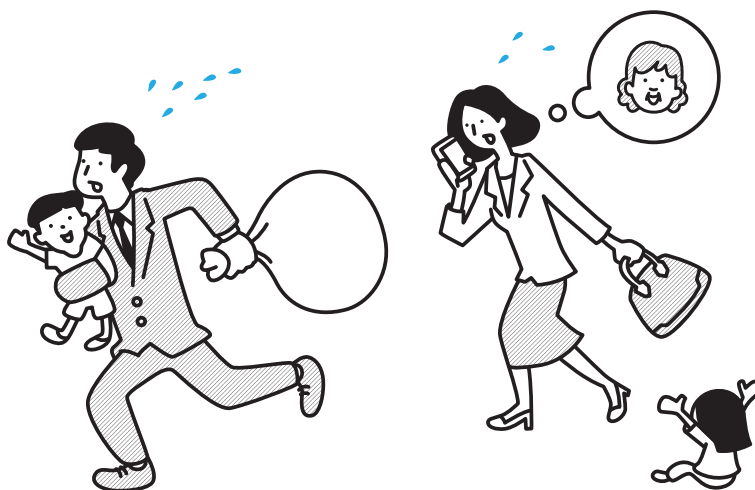
長時間労働は改善される見込みもなく、保育所や学童保育などの待機児童の問題は、改善の糸口が見えない状況です。このように子育て中の共働きを社会全体で支える仕組みが不十分な中、家事代行・ベビーシッターなどの外部サービスを利用すると、経済的な負担が重くなり、家計を圧迫します。

そうなる現実的なのは、夫婦で協力し合うこと、親に支援を頼むこと、など身内の力をフル活用することとなるでしょう。

### 親から子育てのサポートを受けていますか (既婚20~40代男女回答)



旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2016年「くらしに関する調査」



## 働き家族は、共働き家族の多くは、 自宅に「子育て」「家事」を手伝いにきてもらっている

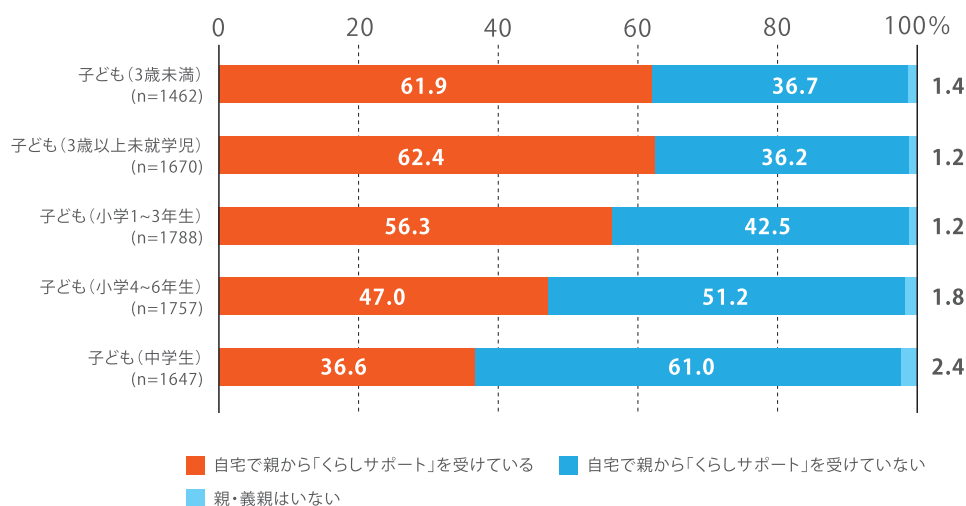
毎日の暮らしが精一杯で、親かたの手伝いを必要としている共働き家族ですが、求めるのは「自宅」で手伝ってもらえることです。「親から自宅で『くらしサポート』※を受けていますか」という設問をみると、特に、子どもが小学校低学年以下の場合には、約8割が「自宅でサポートを受けている」と回答しています。

共働きの夫婦にとっては、自宅でみてもらう方が、子どもを迎えにいく手間もなく、自分の帰宅から就寝までの物事がスムーズに進むので、助かるのでしょうか。また、親子の住まいが遠く離れている場合には、子どもに幼稚園・保育園・学校などを休ませることもなく、日常の暮らしを継続できるので、子どもを親の家の預けるよりも自宅でみてもらいたいと考えるのではないのでしょうか。

※本調査報告書では、子育て中の共働き家族が親から「自宅」でうける「子育て・家事」の支援を「くらしサポート」と表現します。そのうち、子育てに関する支援を「子育てサポート」、家事に関する支援を「家事サポート」とします。



親から自宅で「くらしのサポート」を受けていますか(20~40代共働き男女回答)



旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2016年「くらしに関する調査」



## 「くらしサポート」の副産物、 家族の交流が増え、みんなが笑顔

「大変だから、助けて」ということで、子が親に毎日の暮らしのお手伝いをお願いすることからはじまる「くらしサポート」ですが、実際に「くらしサポート」を受けている共働き家族では、親子の新しい関係が生まれているようです。

まず、「くらしサポート」をお願いすることでは、親と頻繁に顔を合わせるようになります。たとえ短い時間であったとしても、しょっちゅう顔を合わせていれば、孫も祖父母に自然と懐くようになります。そして、親と子は、頻繁に顔を合わせることで、日常な些細なことも会話として情報交換をするようになり、お互いの状況がよく分るようになることから、関係が円滑になります。

盆暮れなどにたまにしか会うことがなければ、よそよそしさのぬぐえない義理親と嫁・息子ですが、頻繁に会うことでその距離が縮まるようです。たわいない会話から、親の趣味を知り、発表会などがあれば「おじいちゃん、おばあちゃんががんばれー」と家族で応援に行く。親から「こんなものが欲しいんだけど、買いに行くのが億劫で」なんて話をきけば、「じゃ、うちで車だしますよ」と子が買い物を手伝う。

また、子どもはおじいちゃん、おばあちゃんと接する機会が増えます。昔ながらの遊びを教えてもらったり、勉強をみてもらったり。子どもは年配者と自然に接することができるようになるなど、社会性が身に付くでしょう。同時に祖父にとっては、子どもと触れ合う機会にもなります。自分の子育て期には仕事が忙しくて子どもに触れ合う機会の少なかった祖父にとっては嬉しい事ではないでしょうか。

「親・子・孫」みんながハッピーになる暮らしは、「くらしサポート」の嬉しい副産物といえるのではないのでしょうか。家族の交流が増え、みんなが笑顔になる。「くらしサポート」からはじまる親子の関係は、これからの新しい家族のかたちなのかもしれません。



## 1-2 調査概要

調査時期 2016年6月

調査対象 共働き夫婦で、親に自宅に来てもらい家事・子育てのサポートを受けている人  
親世帯父母で、共働きの子世帯宅に行き家事・子育てのサポートをしている人

調査方法 Web調査票による調査

有効回答数 子世帯 300件(近居150件 準近居100件 遠居50件)  
親世帯 300件(近居150件 準近居100件 遠居50件)

回答者属性 子世帯

性別			年代			
	男性	女性		20代	30代	40代
全体	51.7%	48.3%	全体	2.3%	62.0%	35.7%
近居	54.7%	45.3%	近居	1.3%	62.0%	36.7%
準近居	58.0%	42.0%	準近居	4.0%	56.0%	40.0%
遠居	30.0%	70.0%	遠居	2.0%	74.0%	24.0%

就業状況 | 共働き家族

夫			妻		
	フルタイム勤務	パートタイム勤務		フルタイム勤務	パートタイム勤務
全体	98.0%	2.0%	全体	56.0%	44.0%
近居	97.3%	2.7%	近居	48.0%	52.0%
準近居	99.0%	1.0%	準近居	61.0%	39.0%
遠居	98.0%	2.0%	遠居	70.0%	30.0%

同居家族(複数回答)

	配偶者	子ども	子ども	子ども	子ども	子ども	子ども
		3歳未満	3歳以上 未就学児	小学 1~3年生	4~6年生	中学生	高校以上 の学生
全体	100.0%	36.7%	42.7%	40.0%	33.7%	12.7%	3.7%
近居	100.0%	33.3%	38.7%	36.0%	40.0%	16.7%	2.0%
準近居	100.0%	37.0%	43.0%	45.0%	32.0%	12.0%	7.0%
遠居	100.0%	46.0%	54.0%	42.0%	18.0%	2.0%	2.0%

居住状況

	持ち家戸建て	持ち家マンション
全体	90.0%	10.0%
近居	100.0%	0.0%
準近居	84.0%	16.0%
遠居	72.0%	28.0%

※本調査において、親子の居住距離に関して次のように定義します。

移動時間を問わず普段の行き来にかかる移動時間が

15分以内のものを「近居」、1時間以内のものを「準近居」、1時間を超えるものを「遠居」

親世帯

性別			年代			
	男性	女性		20代	30代	40代
全体	48.3%	51.7%	全体	8.7%	61.0%	30.3%
近居	42.7%	57.3%	近居	10.0%	65.3%	24.7%
準近居	57.0%	43.0%	準近居	7.0%	56.0%	37.0%
遠居	48.0%	52.0%	遠居	8.0%	58.0%	34.0%

子世帯就業状況

夫			妻		
	フルタイム勤務	パートタイム勤務		フルタイム勤務	パートタイム勤務
全体	98.3%	1.7%	全体	64.7%	35.3%
近居	99.3%	0.7%	近居	65.3%	34.7%
準近居	97.0%	3.0%	準近居	56.0%	44.0%
遠居	98.0%	2.0%	遠居	80.0%	20.0%

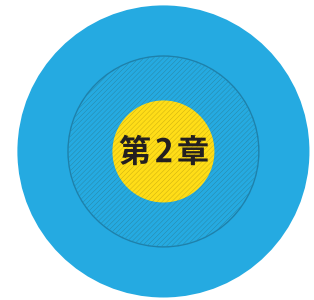
子世帯同居家族(複数回答)

	配偶者	子ども 3歳未満	子ども 3歳以上 未就学児	子ども 小学 1~3年生	子ども 4~6年生	子ども 中学生	子ども 高校以上 の学生
全体	100.0%	35.7%	43.7%	45.7%	33.0%	16.0%	4.7%
近居	100.0%	31.3%	46.7%	46.7%	33.3%	16.0%	4.0%
準近居	100.0%	32.0%	44.0%	49.0%	40.0%	20.0%	7.0%
遠居	100.0%	56.0%	34.0%	36.0%	18.0%	8.0%	2.0%

子世帯居住状況

	持ち家戸建て	持ち家マンション
全体	94.7%	5.3%
近居	100.0%	0.0%
準近居	91.0%	9.0%
遠居	86.0%	14.0%





## すまいの場所

親から、何かしらのサポートを受けていることの多い共働き家族。住まいを購入する際には、何を条件にして場所を決めているのでしょうか。2章では、どのようにしてすまいの場所を決めたか、その実態をみていきます。

## 2-1

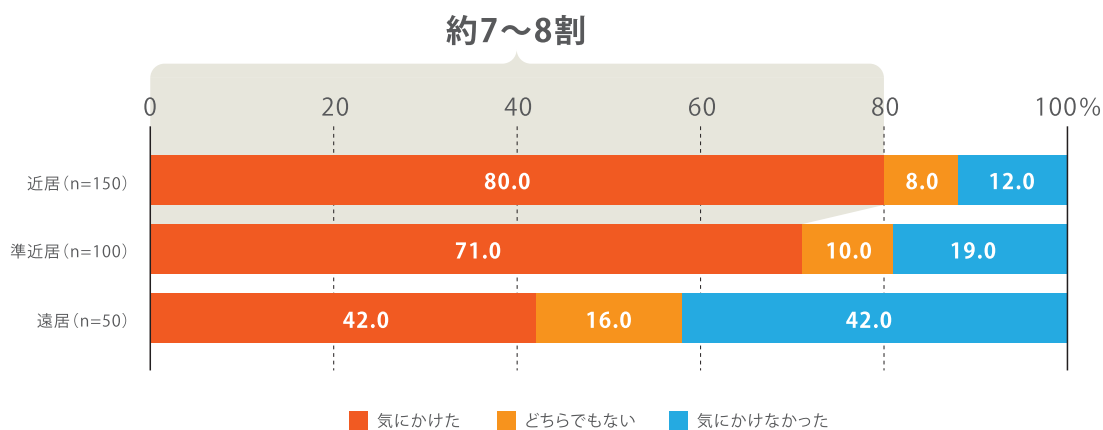
## 自宅でサポートを受ける場合 近居・準近居の約7～8割が実家との距離を 気にかけて、すまいの場所を決めている

共働き家族は住まいを決定する際に、どの程度「実家との距離」を気にかけているのでしょうか。また、夫と妻では違いがあるのでしょうか。「現在の住まいを決定する際、親の自宅との距離をどの程度気にしましたか」という設問について「子」の回答をみていきます。

まず、現在住んでいる場所（結果的に住むことになった場所）と実家との距離を「親子の居住距離別」にみると、「近居」「準近居」では7割から8割が、実家との距離を気にしています。また「遠居」においても、「気にかけて」家族と「気かけなかった」家族の数は同数でした。このことから、自宅でサポートを受ける共働き家族は何かしら実家からの距離を気にしてすまいの場所を決めていることが分りました。



現在の住まいの場所を決定する際、  
家族との距離を気にしましたか（子回答n=300）



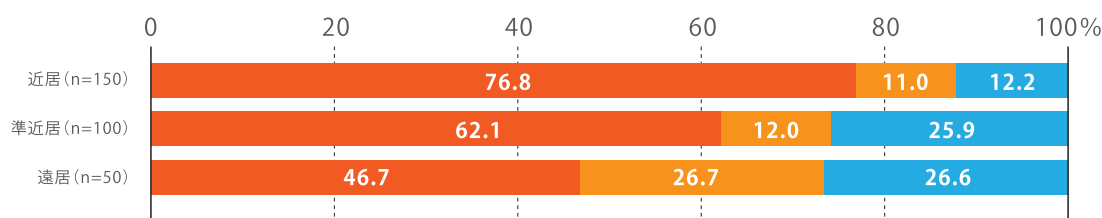
次に、同じ設問について「夫・妻」別にみます。

夫の場合「近居」から「遠居」になるにつれて、実家との距離を気にかけて割合が低くなっています。とはいえ、「遠居」においても「気になかった」が26.6%なのに対して「気にかけて」は46.7%となっており、実家との距離を気にする人のほうが気にしない人よりも多いことが分ります。

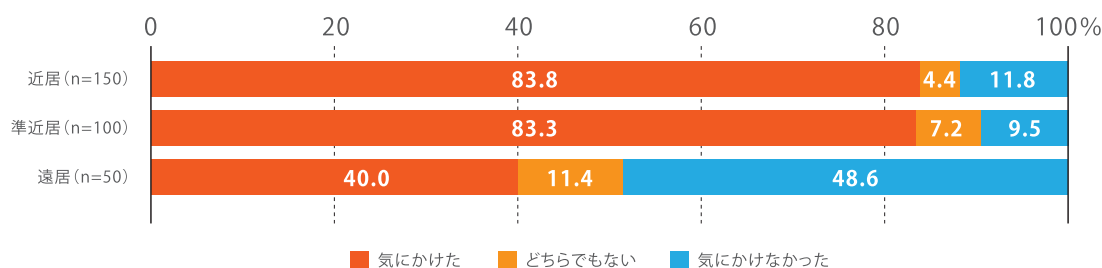
妻の場合は、「近居」「準近居」では8割以上が、実家との距離を気にしていました。一方、「遠居」では夫の場合と異なり、「気になかった」が48.6%と「気にかけて」を上回る結果となりました。



現在の住まいの場所を決定する際、  
実家との距離を気にしましたか(子世帯夫回答n=155)



現在の住まいの場所を決定する際、  
実家との距離を気にしましたか(子世帯妻回答n=144)



■ 気にかけて ■ どちらでもない ■ 気になかった



「くらしサポート」を受けている共働き家族は、結果的に住むこととなった現在の住まいの場所と実家との居住距離に関わらず、住まいを決める際、**夫・妻、ともに実家との距離を気にかけていたことが分りました。**しかし、「近居」か「遠居」かによって、実家との距離を気にかけて割合が異なっていることから、居住距離によってそれぞれ違う理由があつて住まいの場所を決めたと思われます。

すまいの場所を決めた理由

2-2

## 「近居」は「妻」の実家に近いこと、 「遠居」は「夫」の職場に近いこと

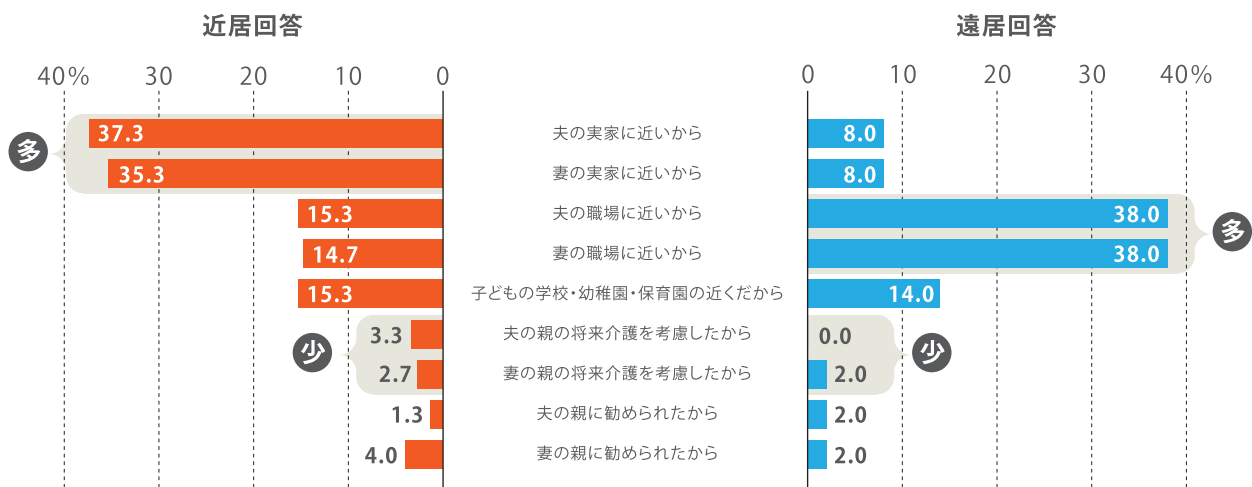
「くらしサポート」を受けている共働き家族が現在のすまいの場所を決める際、何かしら実家との距離を気にしていることがわかりました。最終的にその場所を選んだのには、それぞれの理由があると思われます。ここでは、住まいの場所を決定するに至った具体的な理由をみていきます。

「現在の自宅の場所を決めた理由」について親子の居住距離別にみると、「近居」の場合、1位が「自分の実家に近いから」、2位が「配偶者の実家に近いから」となっています。また、「遠居」の場合は、1位が「自分の職場に近いから」、2位が「配偶者の職場に近いから」となっています。

一方、これまでの研究でわかっているように「同居」の動機となることが多い「親の介護」については、すまいの場所の決定要因としてあげる人は少なくなっています。ひとつ屋根の下で住む場合（同居）には動機になることが、ふたつ屋根の下（別居）で住む場合にはあまり動機になっていないといえます。つまり、自宅で「くらしのサポート」を受ける共働き家族にとって「実家との距離」は、あくまでサポートを受ける立場からの懸案であり、「介護」をする立場からではないことが分ります。



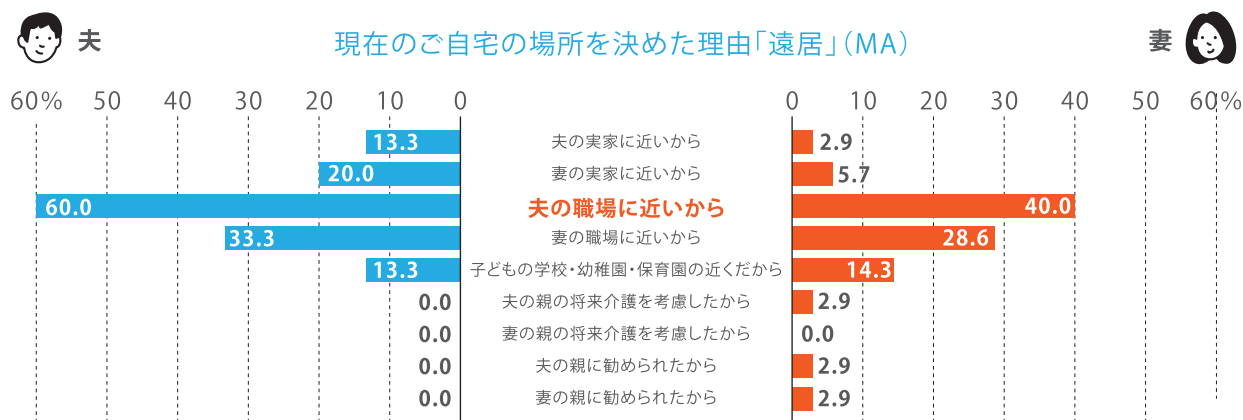
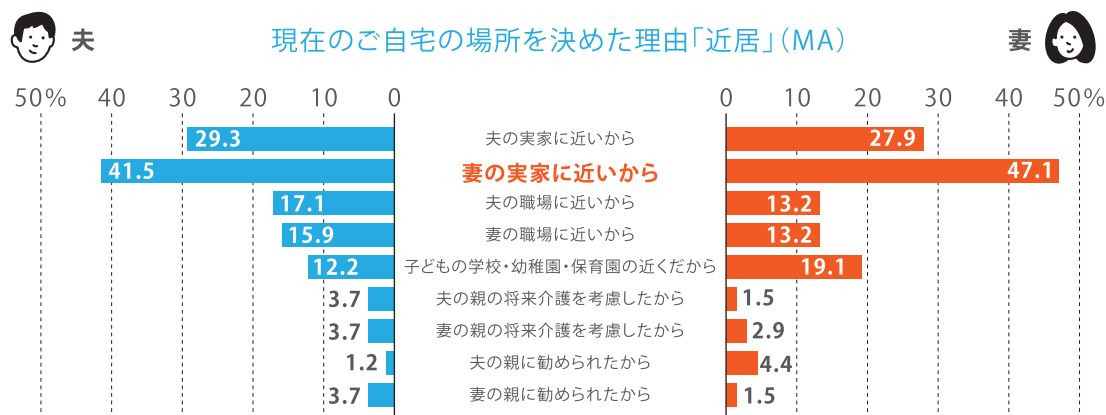
現在のご自宅の場所を決めた理由MA(子回答)





続いて、同じ設問について夫・妻別にみていきます。

「近居」の場合、最上位となっている理由は、夫も妻も「妻」の実家に近いとなっています。「遠居」の場合、最上位となっている理由は、夫も妻も「夫」の職場に近いとなっています。このことから、「近居」の場合は、「妻」の実家に近いことを優先してすまいの場所を決め、「遠居」の場合は「夫」の職場に近いことを優先してすまいの場所を決める共働き家族が多いことが分かりました。



すまいの場所を決める時、様々な希望の中から優先順位をつけて、最終的な判断をすることになりますが、共働き家族にとっては「**実家に近いこと**」、「**職場に近いこと**」が重要な要素だということが分かりました。そして「近居」を選んだ家族は、夫も妻も「『妻』の実家に近い」ことを最も重視し、「遠居」を選んだ家族は、夫も妻も「『夫』の職場に近い事」を最も重視して、すまいの場所を決めるという傾向がうかがえました。

## 2-3

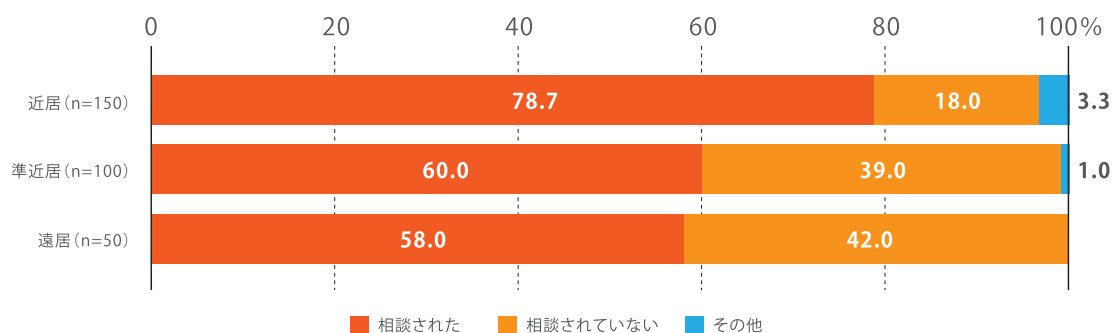
## すまいの場所を決定する際、 6～8割は事前に親に相談している

ここでは「すまいの場所を決める時の事前相談」について、共働き家族夫婦の「親」へのアンケート結果からみていきます。

「お子様が現在の住まいを決定する際、事前に相談を受けましたか？」という設問についてみると、「近居」では約8割、「遠居」では約6割が「事前に相談があった」と回答しています。



お子様が現在の住まいの場所を決定する時、  
事前に相談受けましたか（親回答n=300）



具体的な相談内容を自由回答からみると、主な相談内容としては「候補地の住環境について」「資金計画や住宅ローンについて」「土地や建設会社の選択について」など家づくりに関してアドバイスをもとめるものが挙がっています。ほかに「自宅取得の際の資金援助」「家事や子育ての支援」といった親からの支援を求めるものなども挙げられています。



## すまいの場所決定の時の 子世帯からの主な相談内容はどうなものでしたか：自由回答より

- 子育ての手伝いと頭金を貸してほしいということ。
- 土地や間取りなどの選定や孫の保育所送迎の手伝いを依頼された。
- 小学校の延長学級のお迎えをしてほしい。上の子が塾に行くときに食事をさせてほしい。
- 建設会社の選択、家の大きさ、建設費用の工面等について相談があった。
- 家の所在地、価格とのバランス等どの家を選ぶべきかの相談。
- 敷地や環境など、生活全般で安全で安心して暮らせるかどうか。
- 夫の勤務地に通勤が便利で、住宅環境がよい所で2か所候補地があるから現地を見て参考意見を聞きたい。
- 予算について夫の収入でローンを組めるか。
- 購入予定の土地について場所等適切か。建物の間取り等について。資金繰りについて。



共働き家族は、住まいを決める時に自分達の親に事前に相談していることが多いことが分かりました。そして、「近居」が「遠居」よりも相談している割合が高くなっていました。

具体的な相談内容としては、家づくり自体についてのアドバイスの他に「資金援助」や「家事や子育ての援助」などがあり、「近居」の場合は「家事や子育ての援助」などを「くらしサポート」を意識して相談していると推察されます。

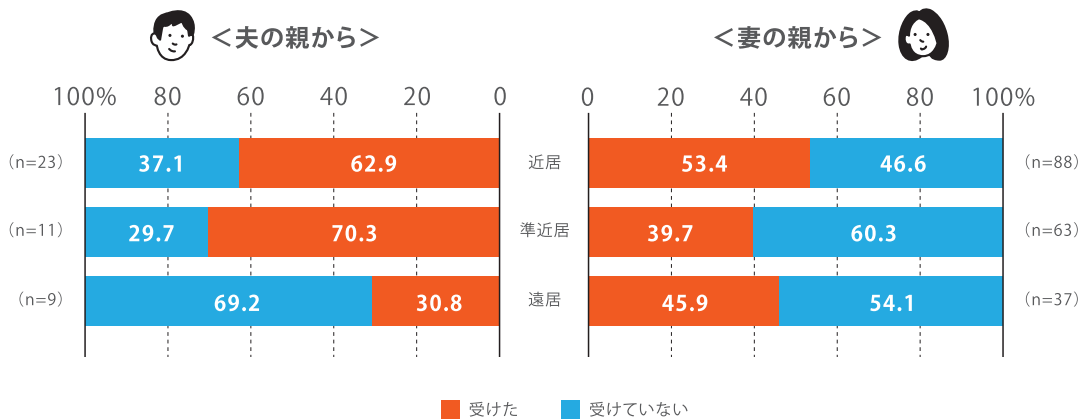
## 2-4

## 住宅取得の際、 近居の半分以上が親から支援を受けている

2-3で、共働き家族が住まいを決める時、家づくり自体についてのアドバイスのほかに、「親にお願いしたい支援」について事前に相談をしていることが分かりました。ここでは、住宅取得の際の「親から子への経済的支援」について詳しくみていきます。

「現在のお住まいを購入する際、親から受けた支援について」という設問について、「親子の居住距離別」にみると、「夫の親」では、「遠居」に比べて「近居」「準近居」の方が多く支援してもらっていることが分ります。一方、「妻の親」については、「夫の親」ほど居住距離による違いは見られませんでした。

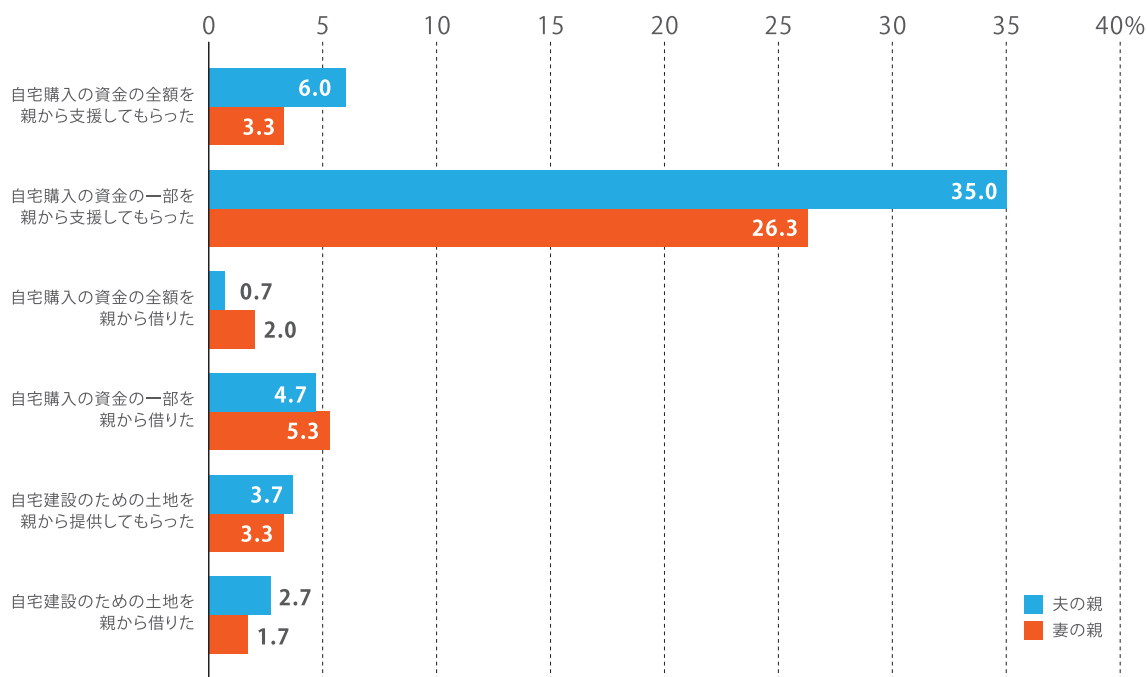
自宅を取得する際、親から支援を受けましたか(子回答)



親から受けた支援の内訳を具体的にみると、「自宅購入の資金の一部を親から支援してもらった」が一番多くなっており、特に、「夫の親」からの資金援助については35.0%と最も高い値となっています。



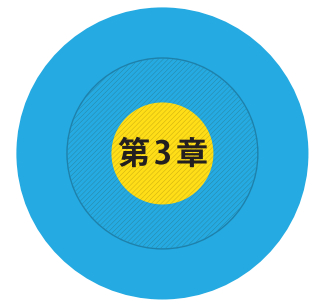
自宅を取得する際、親から受けた支援MA(子回答n=300)



自宅でサポートを受ける近居の半分以上が住宅取得の際に親から「経済的な援助」を受けており、夫の親が妻の親より資金援助を受けていることが多いことが分りました。中でも夫の親の場合、親子の居住距離が「近居」「準近居」(1時間以内)で親からの援助が多くなるようです。

2章では、共働き家族がどのようにして住まいの場所を決めているかみてきました。親からの「くらしサポート」を受けている共働き家族は、住まいの場所を決める際、夫・妻ともに実家との距離を気にかけています。しかし、最終的にその場所に住むことに決めた理由には、親子の居住距離による違いがありました。また、住まいの場所を決定する際、6～8割は事前に親に相談していることも分かりました。具体的な相談内容は、家づくり自体についてのアドバイスの他に「資金援助」や「家事や子育ての援助」などです。「近居」では「妻の実家に近い」ことを優先して住まいの場所を決める傾向があることから、「くらしサポート」を受けることを想定し、「遠居」以上に「家事や子育ての援助」について親に相談していると推察されます。

自宅でサポートを受ける近居の半分以上が住宅取得の際に親から経済的な支援を受けしており、具体的には「自宅購入の資金の一部を親から支援してもらった」が一番多くなっていました。そして妻の親より夫の親からの資金援助をうけていることが多く、中でも「近居」「準近居」の場合、夫の親からの援助が多くなるようです。



## 「くらしサポート」の実態

共働き家族は、家庭と仕事を両立させるために、親のサポートを必要としています。親が自宅に来て行う「家事や子育てのお手伝い(くらしサポート)」はどのように行われているのでしょうか？

第3章では調査結果をもとに、その実態を明らかにしていきます。

## 3-1

## 「暮らしサポート」のきっかけは、 妻が自分(妻)の親にお願いする事が多い

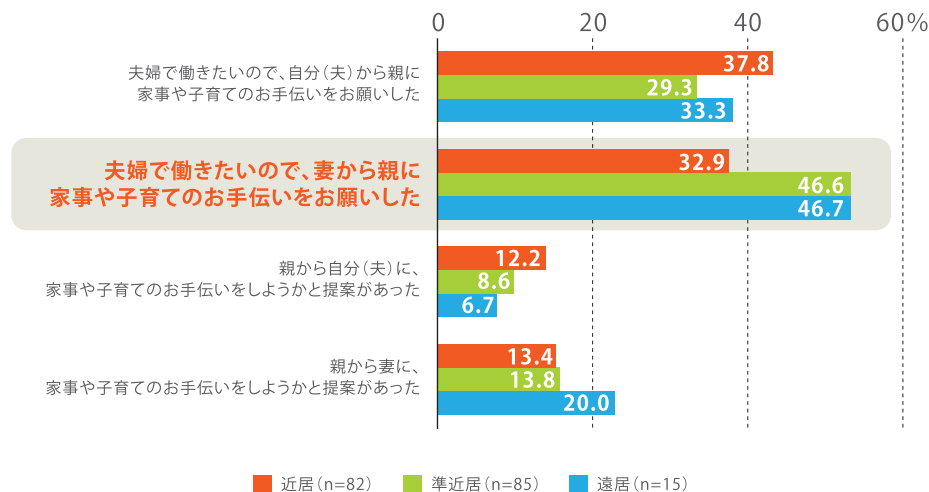
「暮らしサポート」はどのようなことから始まるのでしょうか。「暮らしサポート」のきっかけについて、夫と妻、親子の居住距離、などの視点から探っていきます。

「親に暮らしサポートをお願いすることになったきっかけは何でしたか」という設問を、夫・妻別みると、夫も妻も「妻が親にお願いしたから」という回答が多くなっています。さらに、「妻が親にお願いしたから」という回答について、親子の居住距離「近居・準近居・遠居」別にみると「近居」よりも「遠居」の方が多くなっています。

また、「親から妻に手伝おうかと提案があった」との回答も、存在しています。このことから、親の方から家庭と家事の両立を頑張っている子世帯にサポートを申し出ているパターンもあることがみてとれます。



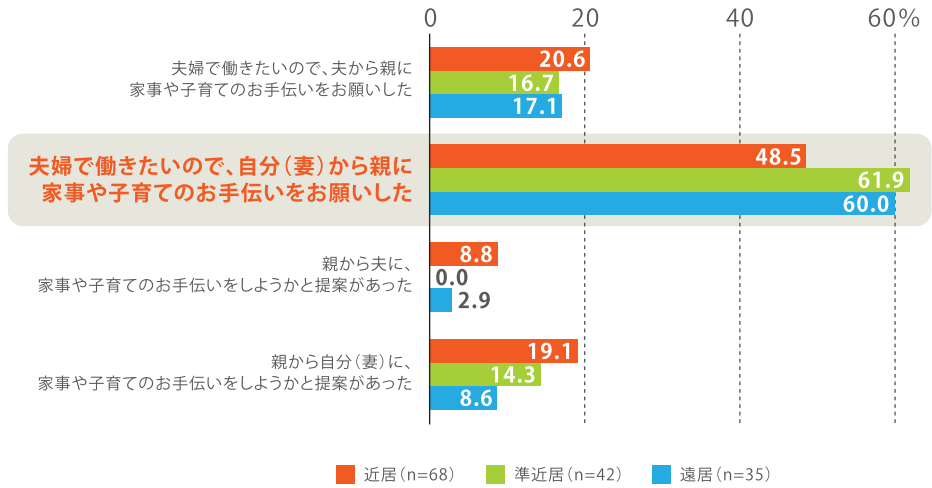
親にサポートをお願いしたきっかけMA(子世帯夫回答)







親にサポートをおねがいしたきっかけMA(子世帯妻回答)



「妻が親にお願いした」ことが「くらしサポート」のきっかけとなることが多く、また、親子の住まいが遠いほどその傾向が強いことが分かりました。これは、共働き家族といっても家事・子育ての中心を妻が担っている家庭がまだまだ一般的であり、夫よりも妻の方に「助けて欲しい」という意識が強いためと考えられます。そして、遠くに住む親にまでわざわざ来てもらうほど差し迫った大変さを実感しているのも妻であるため、よりハードルの高い「遠居」の親に「くらしサポート」を頼むのも妻であるパターンが多くなると考えられます。

## 3-2

## 自宅での「暮らしサポート」は「妻の親」中心で行われている

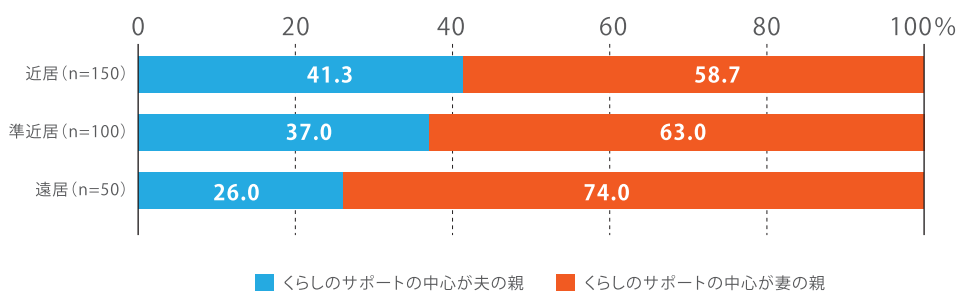
夫の親、妻の親、どちらが「暮らしサポート」をしていることが多いのでしょうか。また、「暮らしサポート」の比重は、親子の居住距離によって違いがあるのでしょうか。

「暮らしサポートをお願いするのは、どちらの親が多いですか」という設問について、親子の居住距離別にみていきます。

「近居」でも約6割が「暮らしサポート」の中心は「妻の親」となっています。そして「遠居」では、それが7割を超えます。



暮らしのサポートをお願いするのはどちらの親が多いですかSA  
(親子の居住距離別)



「暮らしサポート」は「妻の親」中心に行われていることが分かりました。さらに、その傾向は親子の住まいが遠く離れるほど強くなり、言い換えれば、子世帯と親世帯の家が離れれば離れるほど、サポートにくるのは妻の親である場合が多くなるということでしょう。

3-3

## 親子の居住距離により、「暮らしサポート」のかたちが変わる

親と子の住まいが遠いほど、「妻の親」が暮らしサポートの中心」となる傾向が強いことが分りました。他にも、居住距離によって変わってくる「暮らしサポート」のかたちがあるのでしょうか。ここでは、親子の居住距離と「暮らしサポート」のあり方の関係を見ていきます。

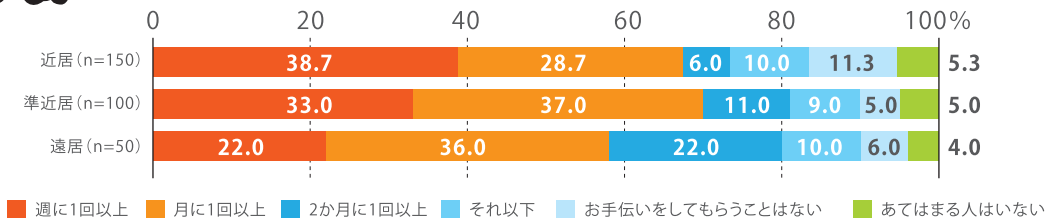
### 親と子の住まいが近いほど「暮らしサポート」を週1回以上受ける頻度が高くなる

自宅で親からの「暮らしサポート」を受けている共働き家族が、「妻の母親」に「暮らしサポート」を受けている頻度をみると、親世帯と子世帯の住まいが近いほどサポートを受ける頻度が高いことが分かります。とくに近居（居住距離が片道15分以内）の場合は、約4割の共働き家族が、週1回以上親から「暮らしサポート」を受けています。

また遠居（移動時間が片道1時間を超える場合）でも、約6割の共働きの家族が月1回以上親から「暮らしサポート」を受けています。



妻の母親に暮らしのサポートを受ける頻度（親子の居住距離別：子回答）

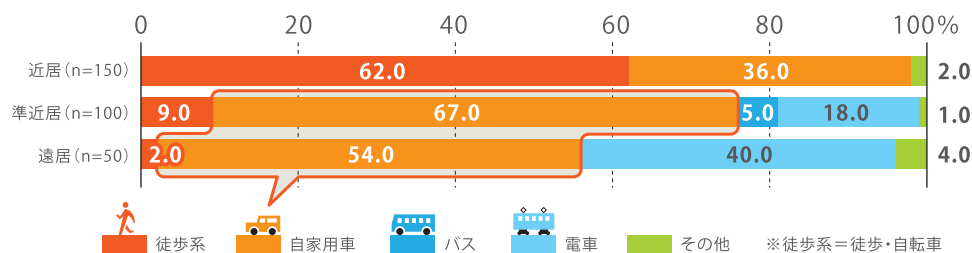


### 親の主な交通手段は「近居」は徒歩、「準近居」「遠居」では自家用車が多数派

「暮らしサポート」の時、親はどのような交通手段で子世帯の家に行くのでしょうか。親へのアンケート結果からみると、「近居」では徒歩系が約6割となっています。一方、「準近居」「遠居」では自家用車利用が多数派となっています。



お子様のご自宅に行かれる時の主な交通手段（親子の居住距離別：親回答）

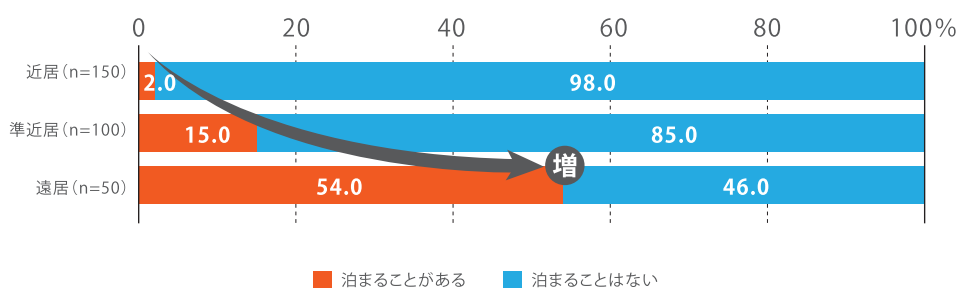


## 「遠居」の場合、半数以上の親が子世帯の家に宿泊している

「暮らしサポート」に宿泊が伴うことはあるのでしょうか。親へのアンケートからみると、多くの親が日帰りで「暮らしサポート」をしていることが分かります。「近居」の場合は98%が、「準近居」でも85%「泊まることはない」と回答しています。しかし、これが「遠居」となると、半数以上が「泊まることがある」となります。親と子の住まいが遠く離れている場合は、子世帯の家に親が数日宿泊しながら「暮らしサポート」をしている様子が見えてきます。



暮らしサポートの時、子世帯宅に泊まることはありますか  
(親子の居住距離別:親回答)



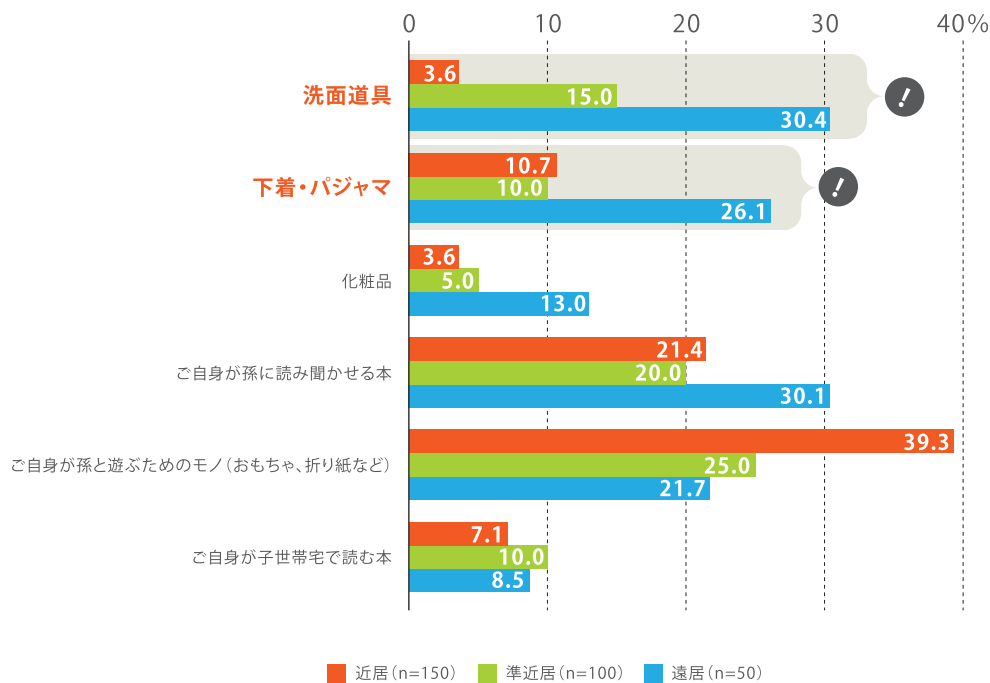
親世帯と子世帯の**家が近いほど「暮らしサポート」の頻度は高くなり**ます。交通手段は、「近居」では徒歩系が多く、「遠居」では自家用車が多くなり、特に「遠居」の場合、**親が子世帯の家に宿泊することが**多くなることになりました。つまり、親子の居住距離によって、「暮らしサポート」のかたちについては「暮らし」のかたちが違ってくるといえるでしょう。

## 「遠居」の場合、親は子世帯の家に宿泊道具を持参し一部を留め置いている

親子の住まいが遠く離れている場合、親は泊りがけで「暮らしサポート」に行くこともあります。「親が子世帯宅に持っていき子世帯宅においたままにしてあるモノ」について、親子の居住距離別にみると、「遠居」では洗面道具や、下着・パジャマなど宿泊に必要なものを持っていきおいたままにしていることが分ります。このことから、「遠居」で暮らしサポートを受ける子世帯の家には、親の宿泊道具を置いておく場所があると良いと思われれます。



暮らしサポートの時子世帯宅に持っていき、おいたままにしてあるモノ（親回答）



## 3-4

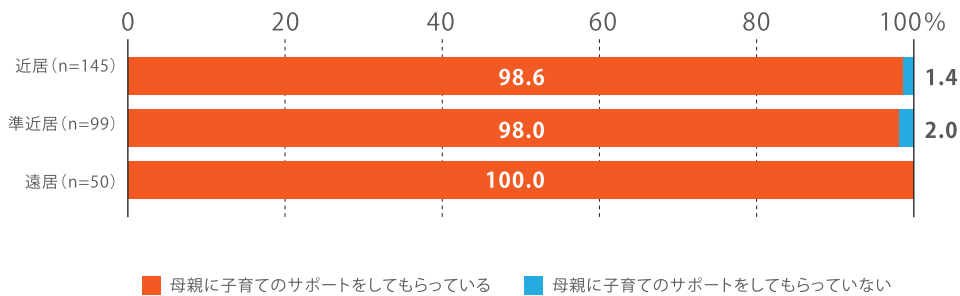
## 「子育てサポート」は、ほぼ100%行われ 「病気・遊び・食事」を母親中心で行っている

「暮らしサポート」は、サポートする側の状況によって内容が変わってくるのでしょうか。ここからは「暮らしサポート」のうち、子育てについて、親子の居住距離や、サポートする親が誰なのか、といった視点でみていきます。

はじめに「母親に自宅で子育てのサポートをしてもらっていますか」という設問について、親子の居住距離別にみると、「近居」「準近居」「遠居」いずれの場合もほぼ全員がサポートをしてもらっていることが分ります。

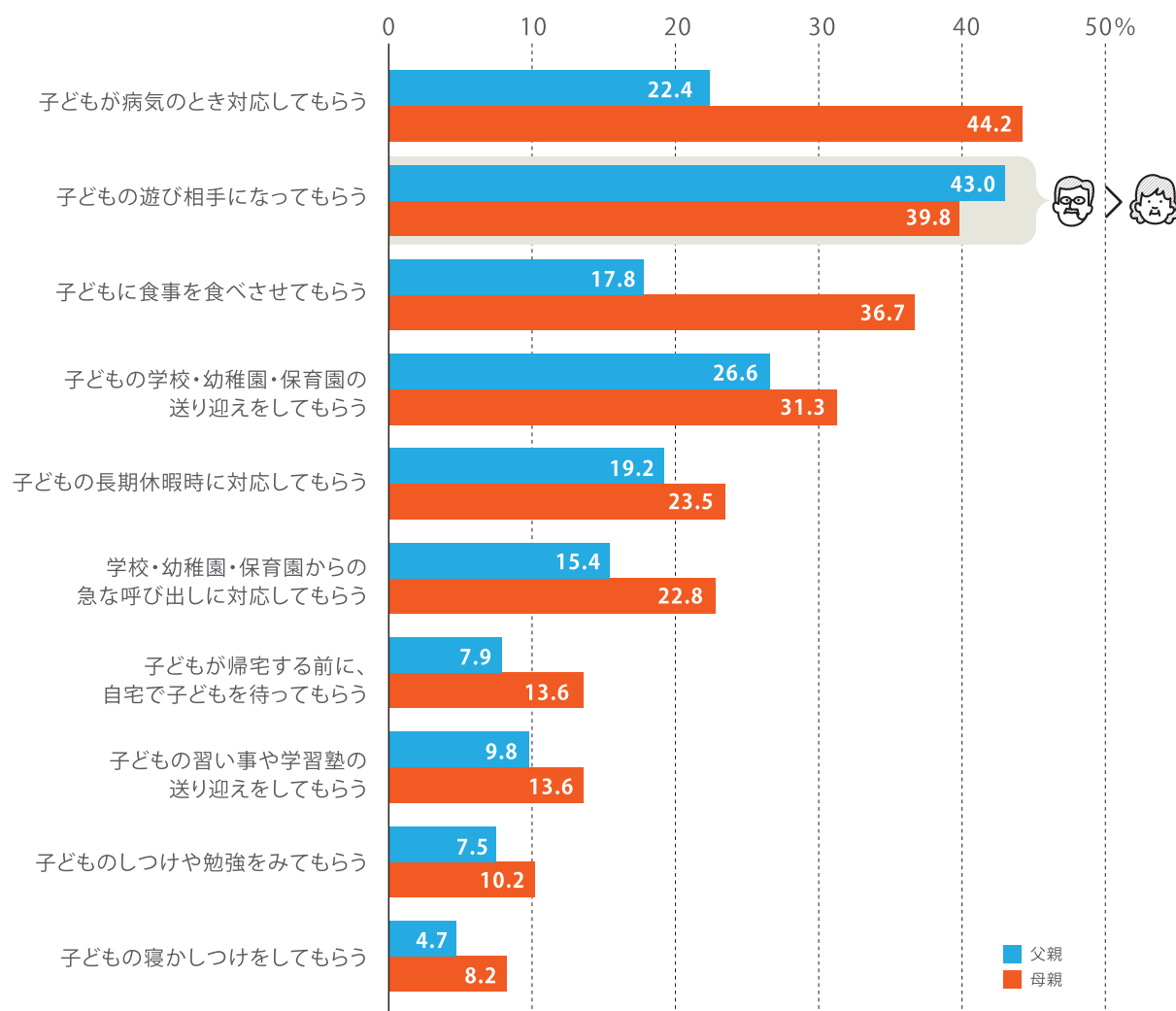


母親に自宅で子育てのサポートをしてもらっていますか(子回答)



次に、子育ての内容を「子育てについて親からしてもらっていることは何ですか」という設問から具体的にみていきます。サポートする親の性別（父親か母親か）に着目して子の回答をみると、全体的に「子育てサポート」は父親よりも母親にしてもらっている割合が高くなっています。その中であって、父親が母親より手伝っているものは「子どもの遊び相手になる」こと、となっています。このことから、父親は、スキルが必要な子育てについては母親に任せて、自分のできることで子世帯をサポートしていると考えられます。また項目別に母親がサポートしている割合が高いものを順にみると、「子どもが病気の時の対応」、「子どもの遊び相手になる」、「子どもに食事をたべさせる」となっており、病気・遊び・食事をメインにサポートしている状況がうかがえます。

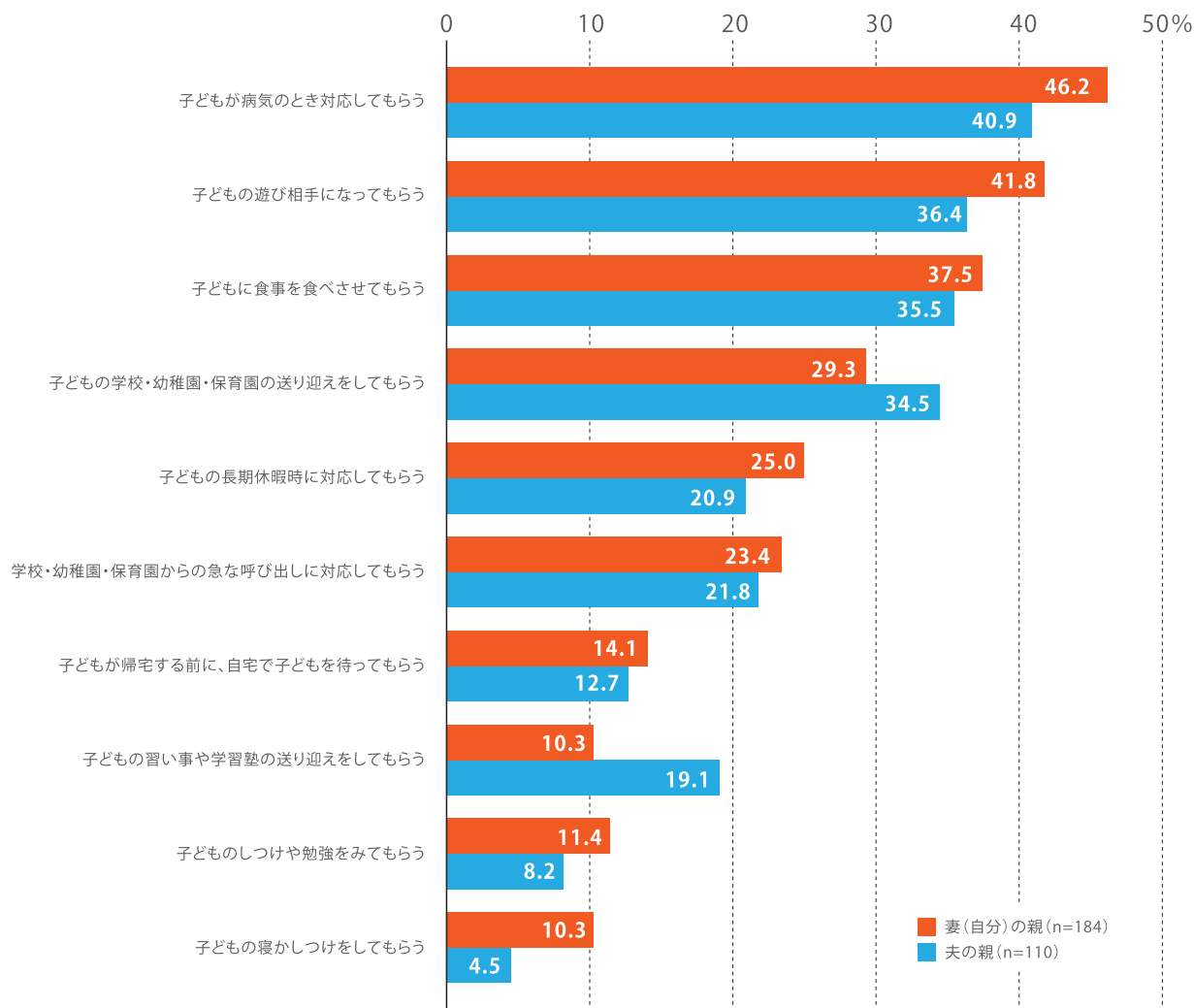
 子育てについて親にしてもらっている事MA(父親母親別:子回答)



続いて、同じ設問について「サポートをしてくれるのが「妻(自分)の親」なのか、「夫の親」なのかに着目して、子世帯妻の回答をみていきます。「子育てサポート」の内容については、「夫の親」、「妻の親」に大きな違いは見られませんでした。このことから、夫婦どちら側の親にも同じように「子育てサポート」をしてもらっている事が分かりました。



子育てについて親にしてもらっている事MA(夫の親/妻の親別:子世帯妻回答)



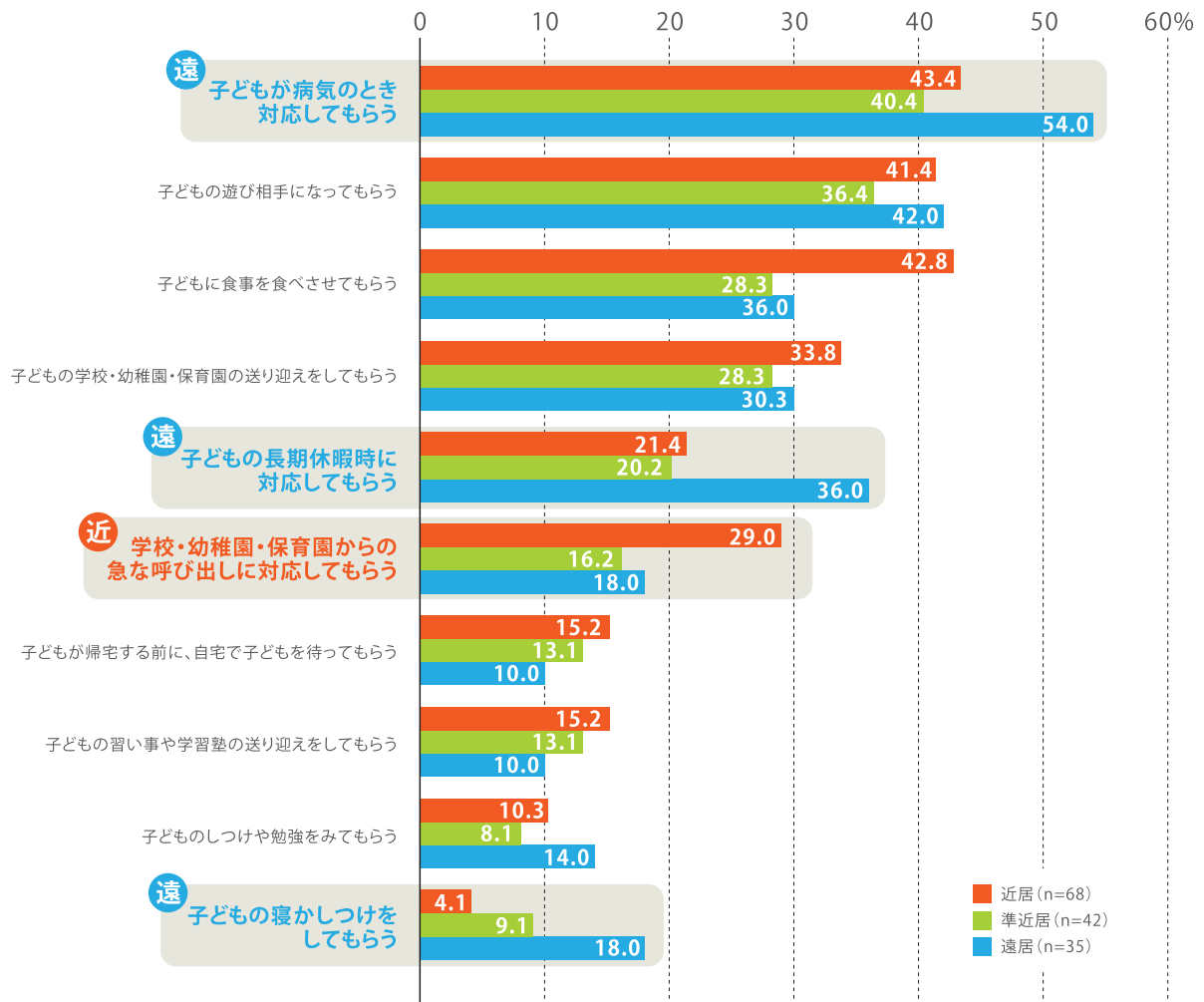
最後に、「子育てで母親にやってもらっていること」について、親子の居住距離別にみていきます。

距離による違いが目立つものを挙げます。「子どもの学校・幼稚園・保育園からの急な呼び出しに対応」は「近居」が高い割合となっています。そして「子どもが病気のとき対応してもらおう」「子どもの長期休暇時に対応してもらおう」「子どもの寝かしつけ」は「遠居」が高い割合となっています。つまり、「家が近いため緊急時に対応できる事」が「近居サポート」の特徴で、「宿泊することで対応できる事」が「遠居サポート」の特徴といえるでしょう。





### 子育てについて母親にしてもらっている事MA(親子の居住距離別:子回答)



「子育てサポート」についても、親の性別や居住距離によって、内容が異なることが分かりました。内容としては、「病気・遊び・食事」のサポートが中心で、性別では父親よりも母親が中心となって行っていることが分かりました。これは、親世代が子育てをしていた時代には、父親よりも母親が子育てを主に担っていたことが多く、母親の方が、子育てスキルが高いことによると考えられます。しかし、父親も「子どもの遊び相手になる」など、できる範囲で子世帯をサポートをしているようです。また、親子の居住距離別では、「近居」では「緊急対応」が特徴であり、「遠居」では「宿泊することで可能となる対応」が特徴であることが分かりました。

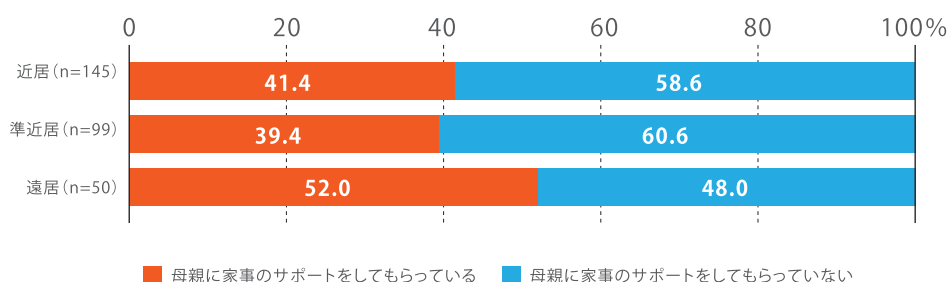
### 3-5 「家事サポート」は、遠居が多い

家事についても、子育てと同様に、サポートする側の状況により内容が変わってくるのでしょうか。ここからは「暮らしサポート」のうち、家事について、親子の居住距離や、サポートする親が誰なのか、といった視点でみていきます。

まず、はじめに「母親に自宅で子育てのサポートをしてもらっていますか」という設問について、親子の居住距離別にみると、「近居」「準近居」の場合は半数以下、「遠居」になるとその割合が増えて、半数以上がサポートをしてもらっていると回答しています。しかし、3-4の子育てと比べると、家事はあまりサポートを受けていないようです。つまり、共働き家族への「暮らしサポート」のメインは、「子育てサポート」だと言えます。



母親に自宅で家事のサポートをしてもらっていますか(子回答)

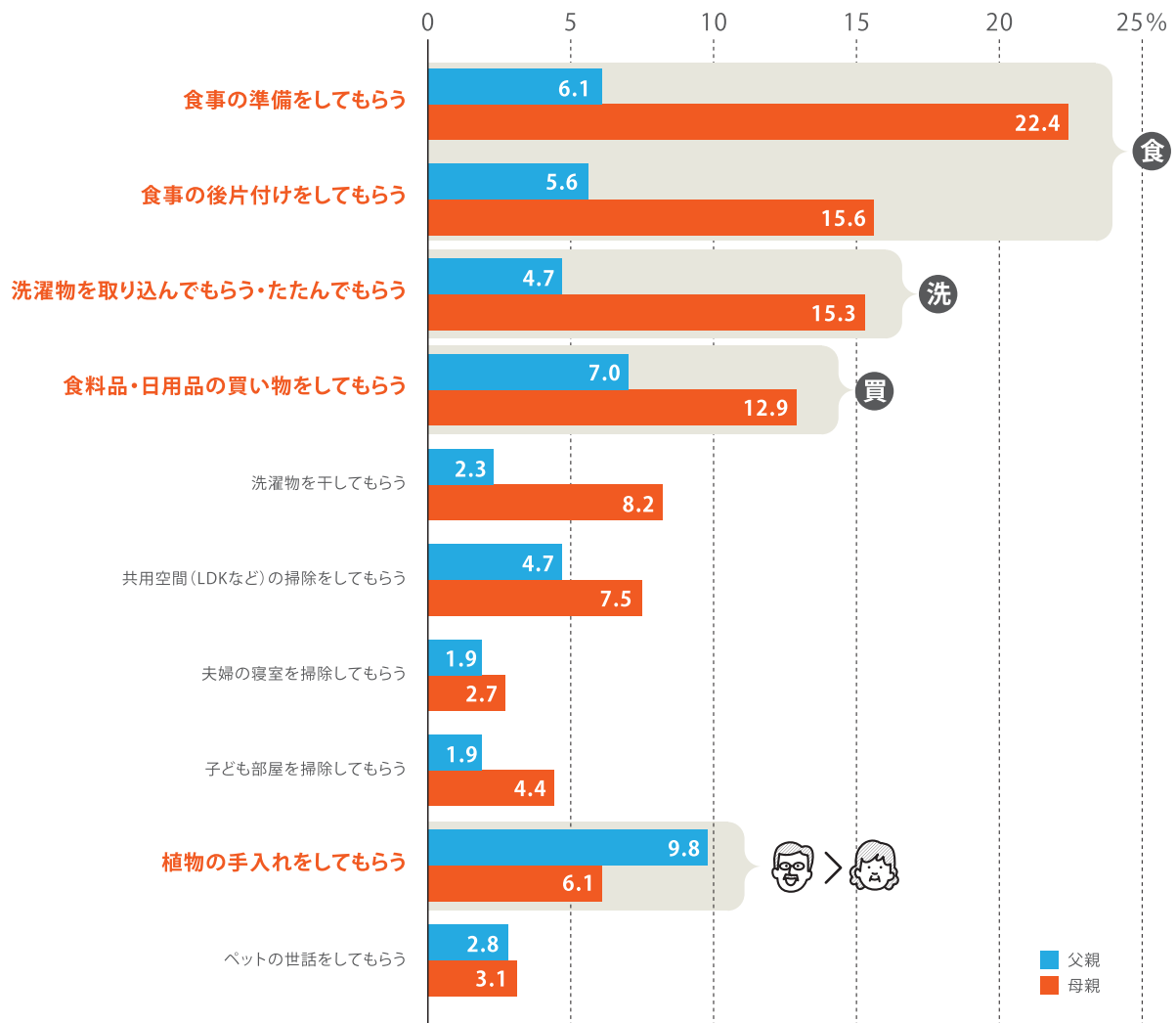


「家事サポート」の内容を親（父親か母親）に着目してみると、「子育てサポート」と同様に、父親よりも母親が中心となって行っていることが分かりました。家事も子育て同様、これまでの経験から父親よりも母親の方がスキルが高いことが要因といえるでしょう。

なお、家事で母親にやってもらっている内容は、「食事準備」が22.4%で最も多く、続いて「洗濯物の取り込み」15.3%、「日用品の買い物」12.9%となっていて、「掃除」に関する項目はいずれも1割となっています。また父親の方がサポートしている事は、「植物の手入れ」である事も分かりました。



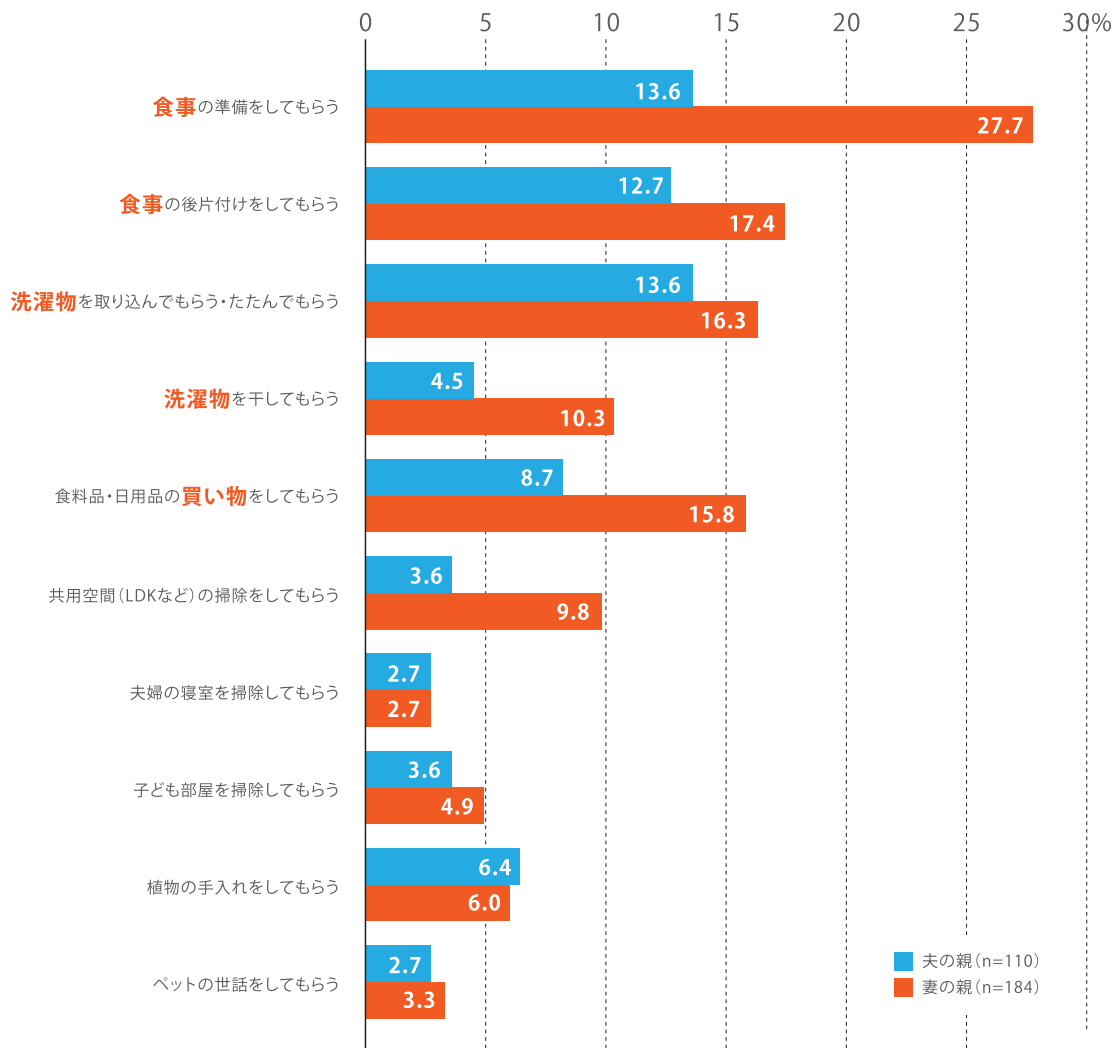
家事について親にしてもらっている事MA（父親/母親別：子回答）



次に、「家事サポート」をするのが「妻の親」なのか、「夫の親」なのかに着目して違いをみると、「家事サポート」は夫の親よりも、妻の親にしてもらっていることが多い事が分かりました。なかでも「食事の準備」は、「夫の親」よりも「妻の親」がすることが多いようです。



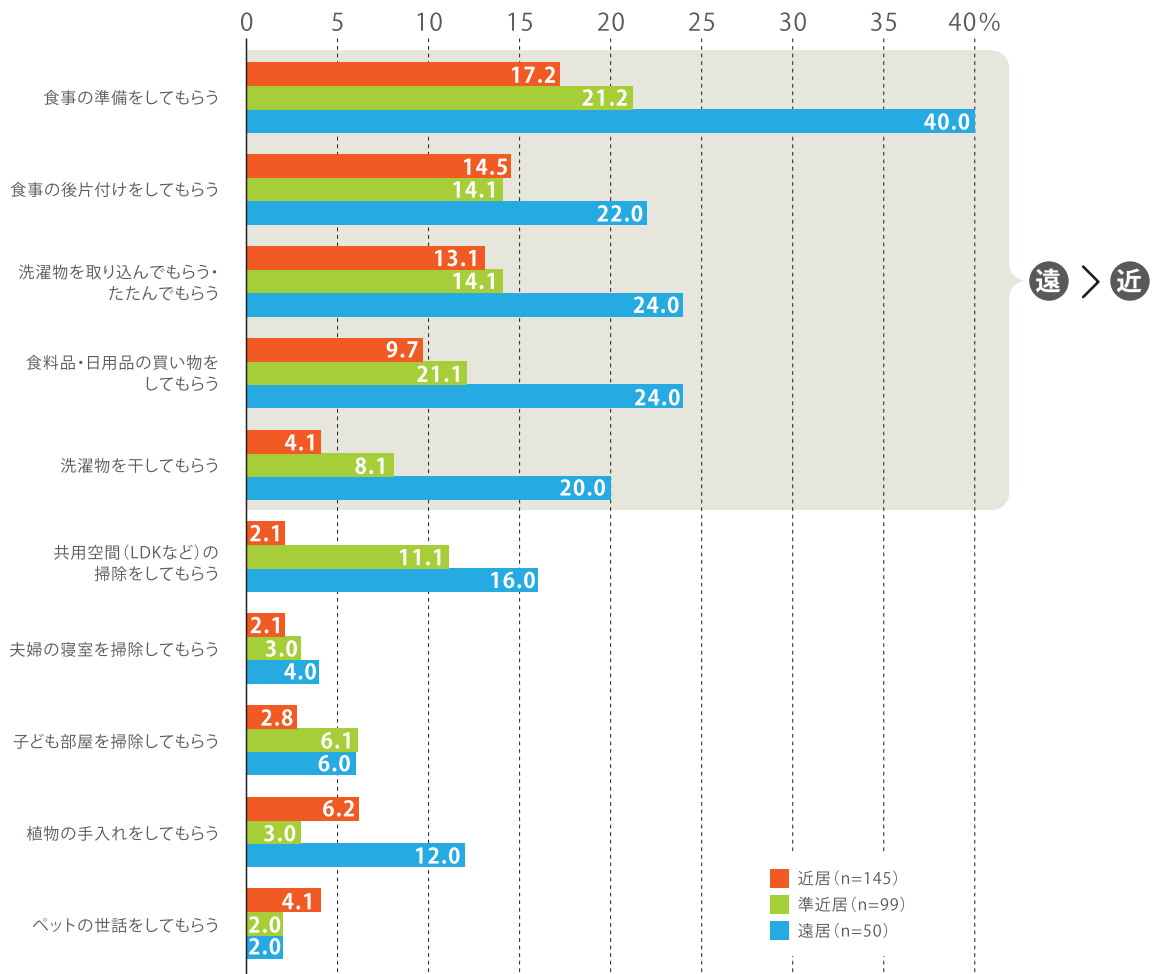
家事について親にしてもらっている事MA(夫の親/妻の親別：子回答)



さらに、「母親してもらっている家事」を親子の居住距離別にみていきます。すると、「家事サポート」は「近居」よりも「遠居」で行われる傾向が高いことが明らかとなりました。「遠居」の場合、「くらしサポート」は宿泊が伴うため、必然的に滞在時間が長くなります。昼間、子どもたちが学校や保育園に行っていて「子育てサポート」が必要のない時間帯も生まれるでしょう。こうした時間を使って「家事サポート」も行われているのではないのでしょうか。



### 家事について母親にしてもらっている事MA (親子の居住距離別：子回答)



「**くらしサポート**」は、**家事よりも子育てがメイン**であると言えます。そして、「子育てサポート」同様に「家事サポート」についても、母親が中心となって行っていることが分かりました。家事の内容としては「**洗濯物の取り込み**」「**買い物**」が多く、掃除はほとんどしていないことが分かりました。また、「食事のサポート」は夫側より妻側の親が行っているパターンが多いようです。さらに、「遠居」では「くらしサポート」に宿泊が伴うことが多く、滞在時間が長くなるため、「近居」「準近居」に比べて家事を手伝っているという、特徴がみられました。子育てのサポート同様、「くらしサポート」のかたちの違いが「くらし」のかたちの違いになりそうです。

## 3-6

親から「暮らしサポート」を上手に受けるために、  
自宅に必要な事

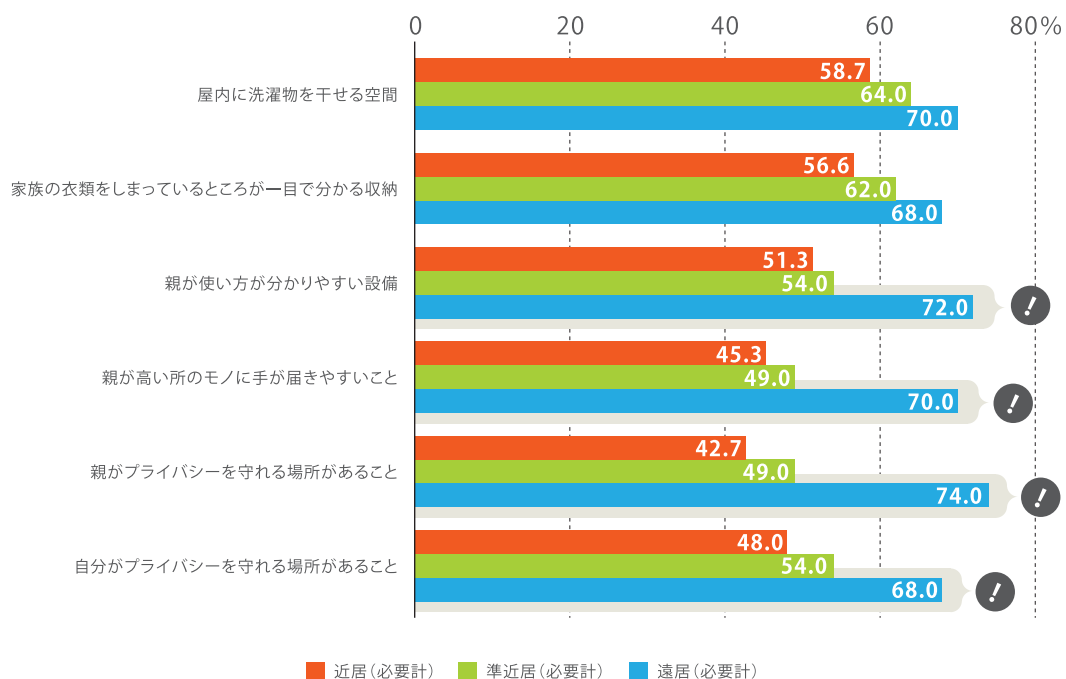
親が子世帯の家に来て、子育てや家事をお手伝いしてくれるのが「暮らしサポート」ですが、自宅にどんなことを工夫すると、親は家事や子育てのお手伝いがしやすくなるのでしょうか。「親から『暮らしサポート』を上手に受けるために、自宅に必要な事」という設問を親子の居住距離別にみることで、近居・遠居に求められる「すまい」のかたちを探ります。

どの項目についても「遠居」であるほど「必要」と回答しています。

特に近居と遠居で差の大きい項目の「親が使い方が分かりやすい設備」「親が高い所のモノに手が届きやすいこと」については、「遠居」の場合は子育てにとどまらず家事もサポートしている事が関係していると考えられます。また同じく近居と遠居で差の大きい項目の「親がプライバシーを守れる場所があること」「自分(子)がプライバシーを守れる場所があること」について、「遠居」のサポートは親の宿泊を伴うことから、親子のプライバシーを守ることが「暮らしサポート」を上手く受けるために必要と子世帯は考えているようです。



親から「暮らしサポート」を上手に受けるために、  
自宅に必要な事(子回答)





「遠居」で「暮らしサポート」を受ける場合、親が家事を手伝うことも多くなるので、**家事を手伝いやすくする工夫**があるとよいでしょう。「屋内に洗濯物を干せる空間」「家族の衣類をしまっているところが一目でわかる収納」「親が使い方が分りやすい設備」「親が高いところに手が届きやすいこと」などが子世帯の家に備わっていると便利です。もちろん家事をしやすだけでなく、親が泊まっている間を快適に過ごせるよう、**親子が互いにプライバシーを守れる場所**も用意しておくといよいでしょう。







## 第4章

# 「くらしサポート」における 親の気持ち・子の気持ち

3章では、共働き家族が自宅で親から受ける「くらしサポート」の実態についてみてきました。本章では、くらしサポートにおける親子それぞれの気持ちを調査結果から明らかにしていきます。

4-1

## 暮らしサポートを支えているのは、サポートしたい親の「子を思う気持ち」

子世帯に対する「暮らしサポート」は、親にとって時間的にも体力的にも楽でないこともあるでしょう。そんな中、親はどのような気持ちで「暮らしサポート」をしているのでしょうか。親へのアンケート結果からみていきます。

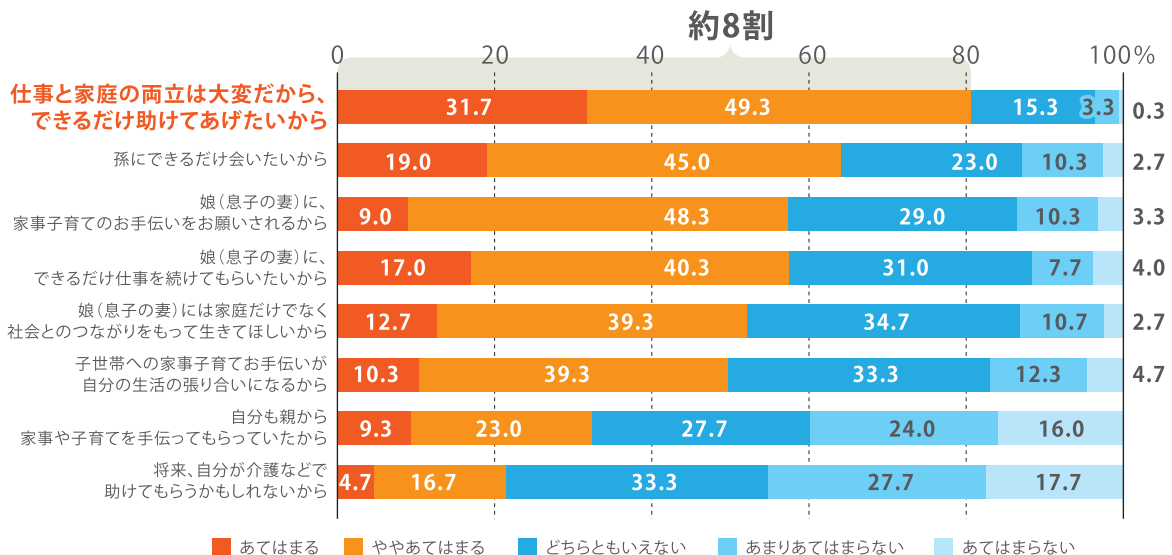
### 親が子世帯のサポートをするのは「子を助けてあげたい」気持ち

「子世帯の家事・子育てをお手伝いする理由」をみると、「仕事と家庭の両立は大変だから、できるだけ助けてあげたい」において「あてはまる」「ややあてはまる」の合計割合が最も高く、約8割となっています。「いくつになっても子は子」というように親は子を思う気持ちから、子世帯の「暮らしをサポート」しているようです。

一方、「将来、自分が介護などで助けをもらうかもしれないから」という、意見は少数でした。親は、子を助けてほしいという気持ちがある一方で、子の世話にはなりたくない、迷惑はかけたくないと思っており、「暮らしサポート」に対して見返りは期待していないようです。



子世帯の家事育児をお手伝いする理由(親回答n=300)



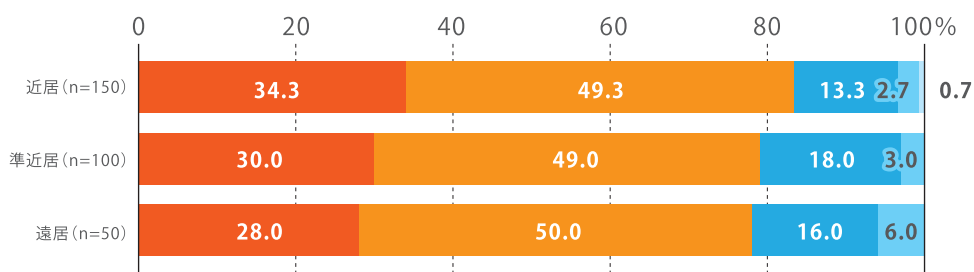
独立したとはいえ、やっぱり自分の子ども。「子には幸せになって欲しい」気持ちはあります。子が困っている姿をみると、やっぱり手助けしたくなります。(70代 父)

毎日仕事で、娘がちゃんとした食事をつくる事も難しいと思います。だから、たまには私が手のこんだ料理を作ってあげたいと思います。材料はもちろん国産です。でも、私とお父さんの夕食はコンビニ弁当で済ませますけどね(笑) (70代 代母)

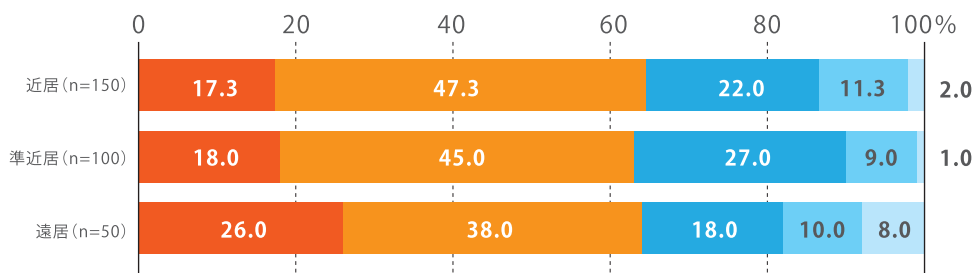
次に、同じ設問について、親子の居住距離別にみていきます。「仕事と家庭の両立は大変だから、できるだけ助けてあげたい」、「孫にできるだけ会いたいから」、「娘（息子の妻）に、家事子育てのお手伝いをお願いされるから」という項目については、多くの親が「あてはまる」と回答しています。この項目については、居住距離に関わらず、半数以上の親が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しています。つまり「子を助けてたい」「孫に会いたい」気持ちは、親子の居住距離に関わらず「暮らしサポート」の根本をなす理由であると考えられます。



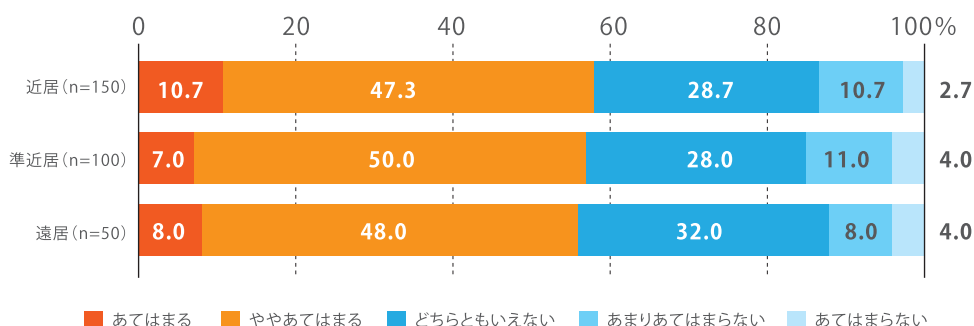
「暮らしサポート」をする理由  
仕事と家庭の両立は大変だから、できるだけ助けてあげたい  
(親子の居住距離別：親回答)



「暮らしサポート」をする理由  
孫にできるだけ会いたいから  
(親子の居住距離別：親回答)



「暮らしサポート」をする理由  
娘（息子の妻）に、家事子育てのお手伝いをお願いされるから  
(親子の居住距離別：親回答)

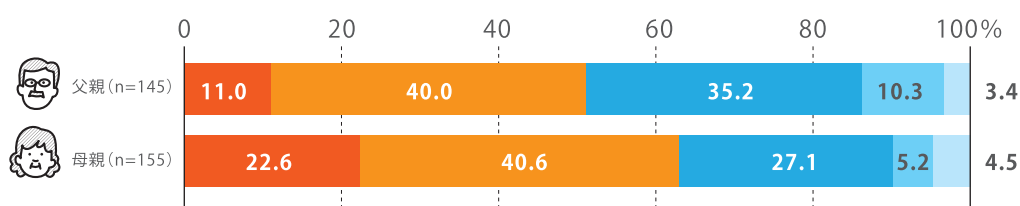


■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない

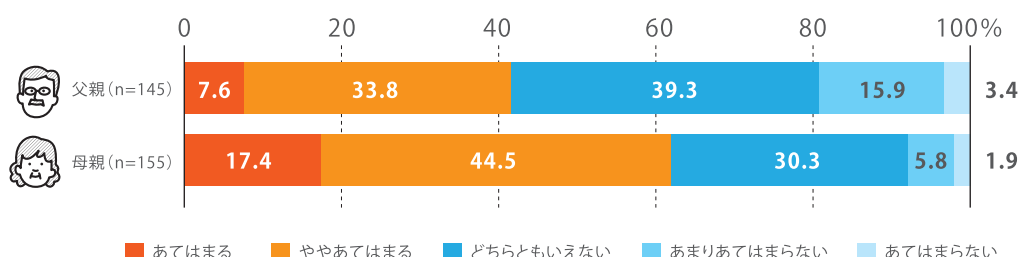
## 母親は頑張る娘を応援したいと考えている

今度は、同じ設問について、サポートする親の性別（父親か母親か）による違いをみていきます。「娘（息子の妻）に、できるだけ仕事を続けてもらいたいから」「娘（息子の妻）には家庭だけではなく社会とのつながりを持って生きてほしいから」という項目において、父親より母親の方がより多く「あてはまる」と回答しており、どちらも6割以上の母親が「あてはまる」と回答しています。

「くらしサポート」をする理由  
娘（息子の妻）に、できるだけ仕事を続けてもらいたいから（父親・母親別：親回答）



「くらしサポート」をする理由  
娘（息子の妻）には家庭だけでなく社会とのつながりをもって生きてほしいから（父親・母親別：親回答）



私の頃は仕事をするのも大変でした。朝早く近所で仕事、一度帰宅して家族を送り出して、また昼間に仕事。今、娘がおつとめ頑張ってるでしょ。一度やめると今の時代は同じ仕事するのも大変だし、だから私ができる事なら応援したいの。

 (60代 母)

「仕事と家庭の両立は大変だから、できるだけ助けてあげたい」という「子をサポート」したい親の気持ちがあるからこそ「くらしサポート」が成り立っていることが分りました。

さらに、母親には「娘（息子の妻）には、仕事を続けて家庭だけでなく社会とのつながりを持っていて欲しい」という気持ちがあることも分りました。こうした結果となったのは、母親には、自分が子育てをしている頃には女性が社会に出て働くことが難しかったために、家庭と仕事の両立を目指して頑張る娘（息子の妻）を応援したい気持ちがあるからだと思います。

4-2

## 「くらしサポート」時の、 親の気持ち、子の気持ち

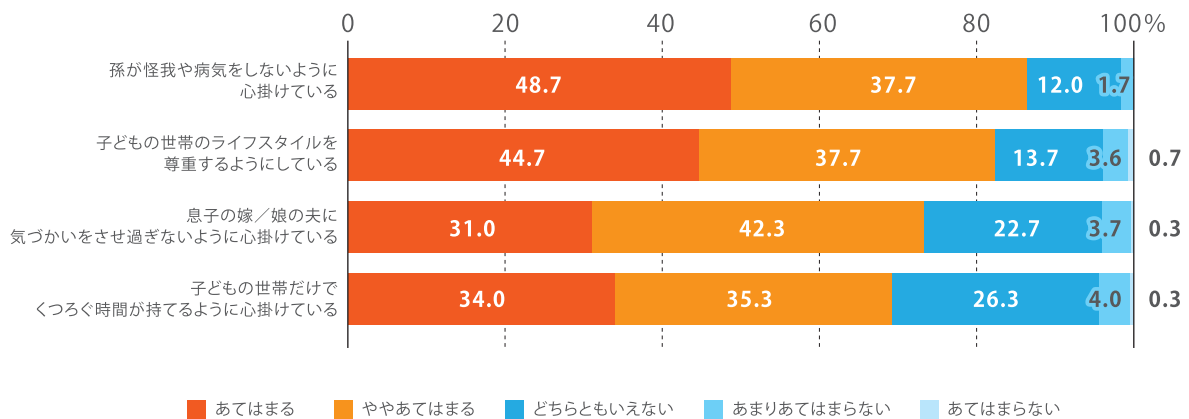
「くらしサポート」は「子をサポートしたい」という親の気持ちが支えていることが分りましたが、実際に「くらしサポート」をしている時、受けている時、親、そして子はどのような気持ちを持っているのでしょうか。アンケート結果からみていきます。

### 親は、子世帯の生活に踏み込みすぎないように気を配っている

「くらしサポート」における親の気持ちを見ると、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計割合が一番高いのは「孫が怪我や病気をしないように心掛けている」となっています。しかし、それ以外の「子世帯への配慮」といえる項目についても約8割が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しています。このことから「くらしサポート」をする時、親は「預かっている孫に何かあってはいけない」という責任感を持って行っているのはもちろんのこと、でしゃばらないようにしたり、義理の息子・娘のことを気かけたりするなど、子の生活に踏み込みすぎないように気を遣っていることが分りました。



子どもの家事や子育てのお手伝いの時に心がけている事(親回答n=300)



できるだけ、子ども世帯の方針には口を出さないようにしてます。いくら親子といえど、別の世帯だからね。

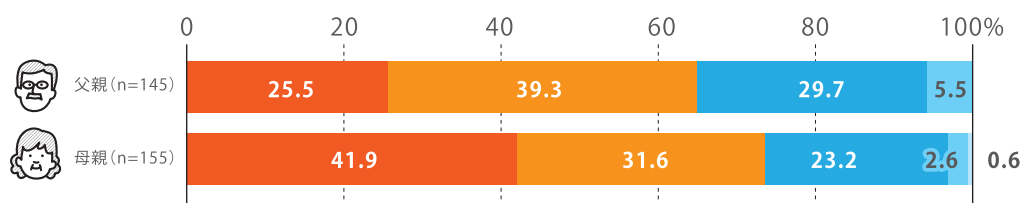
(60代 父)

婚殿の帰宅が早い日は、(事前に分れば)基本的に手伝いをしないようにしています。父親が子ども(孫)と関われる日を大切にしたいので、そっと見守りたいです。

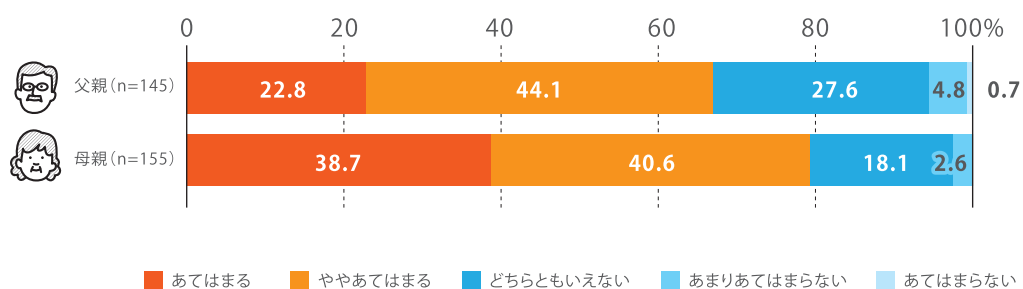
(70代 代母)

次に、同じ設問について性別（父親か母親か）でみると、母親の方が父親よりも子世帯へ配慮している傾向がうかがえました。これは、実際に子の自宅で家事や子育てを行っているのは母親であることが多く、また、女性であるがゆえに細かい部分にまで気が回るため、子が配慮して欲しいだろう事について想像力が働くからではないでしょうか。

「くらしサポート」の時に心がけている事  
 子どもの世帯だけでくつろぐ時間が持てるように心がけている（父親・母親別：親回答）



「くらしサポート」の時に心がけている事  
 息子の妻／娘の夫に気遣いさせすぎないように心がけている（父親・母親別：親回答）



■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない

## 子は、親の体調やライフスタイルを気かけながらサポートをお願いしている

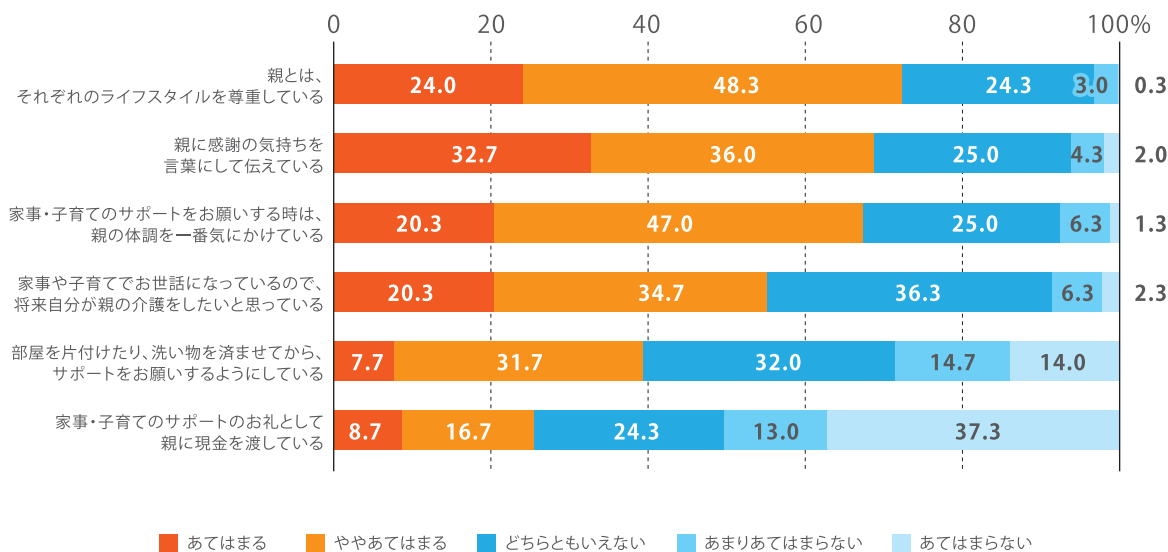
続いて、ここでは「くらしサポート」を受ける時に、子がどのような気持ちでいるかをみていきます。

「親とは、それぞれのライフスタイルを尊重し合っている」という項目において、「あてはまる」「ややあてはまる」という割合が最も高くなっています。そして、「親に感謝の気持ちを言葉にして伝えている」「家事・子育てサポートのお願いをする時は、親の体調を一番に気にかけている」という順で「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高くなっています。

このことから、子は、共働きで大変だからといってむやみに親に「くらしサポート」をお願いしているのではなく、親の体調やライフスタイルを気かけ、感謝の気持ちを持ちながらお手伝いをお願いをしている様子が見えます。



親からの家事や子育てのお手伝いを受けるときの気持ち(子回答n=300)



家事に育児に全てを母にお願いするわけにもいかないので最低限、台所の食器を片付けてからお手伝いをお願いしています。



(40代 妻)

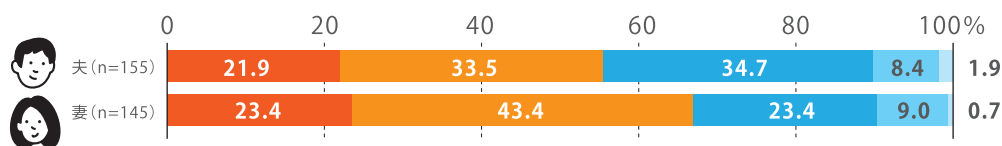
夫婦ふたりで日常生活をのりきっていけないので、親の協力には大変助かってます。お礼とまでいきませんが義両親が重い荷物の買い物をするときは私たちが車をだす様にしています。



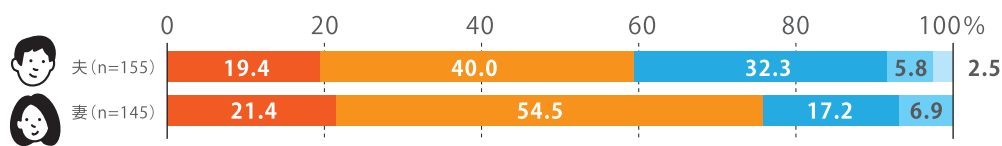
(30代 夫)

次に、同じ設問についてサポートを受ける側の性別（夫か妻か）でみると、どの項目においても、夫より妻の方が「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高くなっています。中でも、「部屋を片付けたり、食器の洗い物を済ませたりしてから、お願いする」については夫と妻の開きが一番大きくなっています。この背景には、「子育てや家事の全てを親にやってもらうのではなく、できる限りは自分達で行い、やりきれない部分を親にお願いしている」という共働き家族の思いがあるのではないのでしょうか。そのため、日ごろ子育てや家事を中心となってやっている妻の方が、夫よりも親の立場に配慮する意識が高くなっていると考えられます。

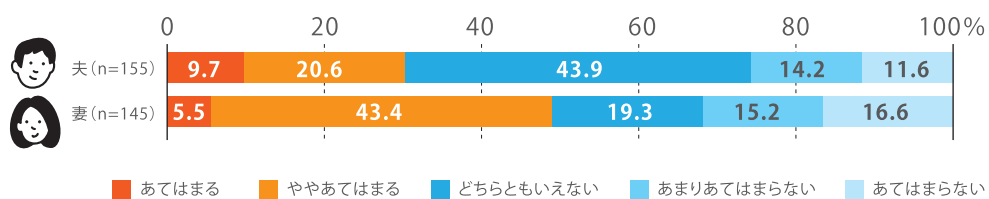
「くらしサポート」を受ける時の気持ち  
親の経済的負担がないよう心がけている(夫・妻別：子回答)



「くらしサポート」を受ける時の気持ち  
親の体調を一番気にかけている(夫・妻別：子回答)



「くらしサポート」を受ける時の気持ち  
親に家事や子育てのサポートをお願いするときは、  
部屋を片付けたり、洗い物をすませてから、お願いする(夫・妻別：子回答)



「くらしサポート」の場面で、子は実際にはどんなことを感じているのでしょうか。家事・子育て別に、それぞれのやり方の違いなどについて、自由回答からみていきます。家事については、「親にお手伝いをお願いしているので親のやり方を尊重する」という意見が多数派なようです。子育てについても「お願いしているので親のやり方を尊重する」という意見がありますが、一方で、「子どものことなのではっきり希望を親に言いたい」との意見もありました。また、「様々な考えを持った人がいることを見せるのは子どもの教育上いい事」と考えている人もいます。





## 自由回答



### 家事について

- やってもらうのに文句は言えない。
- 助けていただいているので、言う立場ではないし、そもそも自分のやり方にこだわりがない。
- 手伝ってもらっている身なので、感謝はしても、文句は言いたくない。
- 私自身、方法にはこだわらない。
- 何か言って、相手が気分を害し、手伝って貰えなくなるのが怖い。
- 夫の親のやり方と私のやり方は全く逆なので、はっきりいって困っている。
- いちいち伝えていっているとストレスがたまるので、これだけは譲れないということだけたまに伝えている。
- やってもらっているからには、たとえ自分のやり方と違ってもちいち言うべきではなく、それに慣れるべきだと思う。
- どうしても気になる場合、ここだけはお願いしたい場合は自分の親なのではっきりと伝えるが、手助けをしてもらっているの、そこまで強要は出来ない。
- 自分たちのやりやすいやり方でやってもらうのがお互いいいと思っている。
- 物の配置や、衣服の収納等気になるので、もやもやした気持ちでいるよりは伝える。



### 子育てについて

- 子育てもこれが良い答えだというのがないと思う。けがをしたりしなればいんじゃないかな。
- 自分のやり方にこだわりはないし、子どももいろんな意見の人に接した方がいいと思う。
- いろいろな大人と触れ合う事で子供の成長に繋がるから。
- 父が孫への教育方針で行き違いと父にはっきり言う。口論になることもある。
- 昔と違うことも多いので、親には話をしている。
- 1歳くらいの離乳食についてはどうしてほしいか伝えた。
- 子供を育ててきた経験からの子育てなのでほとんど言わないが、しつけ部分で叱らない時、怒られているときに子供のしぐさが可愛くて祖母が笑ってしまう時は意見している。
- 子供の面倒をお願いしておいて、やり方が違うとかこうやって欲しいとかは言えた立場ではないので、余程の事がなければ口は出せない。
- あまり色々と要求をしてしまったがゆえに、親から断られてしまったら困るので言えない。
- 子育てに関しては自分の考えを伝えるようにしている。
- 自分の考えに対して、親のアドバイスももらい、どうするか決めていく。
- どうしても「孫」に対しては甘くなっているので、「親」としてしっかりしつけたいところは譲れず、はっきりと伝えている。
- 両親もそれは分かってくれている。



「暮らしサポート」における、親子の共通する気持ちは「お互いのライフスタイルを尊重をし合う」というものでした。親は、子世帯の生活に踏み込みすぎないように気を配り、子は、親の体調やライフスタイルを気にかけています。このようにお互いが配慮することで「暮らしサポート」は成り立っているのではないのでしょうか。親の「子を助けてあげたい気持ち」と、子の「助けてもらう事に対する感謝する気持ち」は「暮らしサポート」の成立には欠かせない親子の気持ちでしょう。しかし同時に子には、ある程度の我慢の気持ちもあるようです。暮らし方や子育てにおける親とのやり方の違いに違和感があっても、伝えてもらっている手前、親に言えないのではないのでしょうか。

## 4-3

## 「くらしサポート」成功のコツは、子世帯宅における「親の立ち入りをコントロールすること」

「くらしサポート」が成り立つためには、親子がお互いのライフスタイルを尊重し合うことが必要ですが、現状に甘んじて我慢をしていることもありそうです。

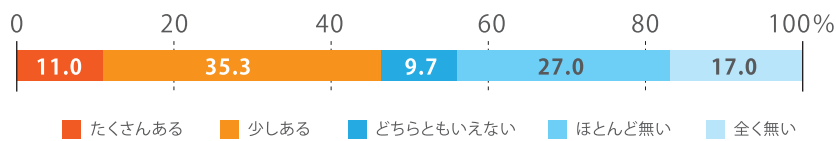
親子ともに「互いの尊重」を気にかけているということは、くらしサポート成功のカギもここにありそうです。そこで、どうしたら親子共にストレスがなく、子世帯の家で「くらしサポート」が上手くいくのか、そのコツを探っていきます。

### 子世帯のストレスの要因は「立ち入れたくない場所」

「ご自身が留守の間に親に立ち入れたくない（見られたくない）場所がありますか」という設問について「子」の回答をみると、約半数が「ある」と回答しています。



ご自身が留守の間に親に立ち入れたくない（見られたくない）場所がありますか（子回答n=300）

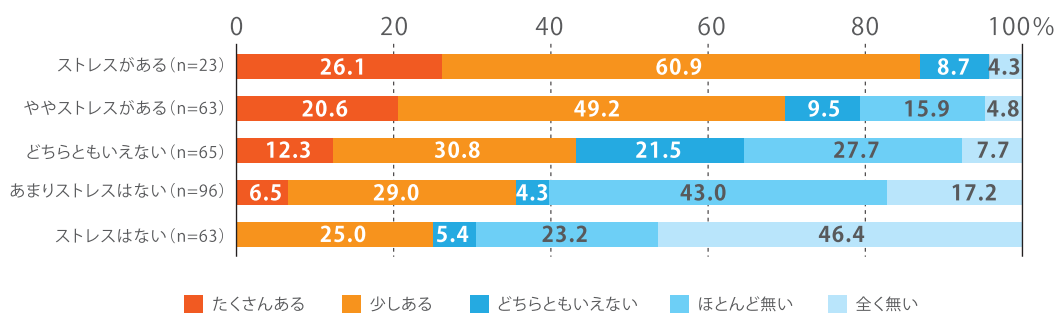


同じ設問について、くらしサポート時の「親子関係のストレスの有無」で比較すると、親子関係にストレスを感じているほど、留守中親に「立ち入れたくない場所、見られたくない場所」を多く持っていることが分かりました。このことから、子世帯の家での「くらしサポート」の時に親子の生活空間をうまくわけることで、ストレスが軽減されと考えられます。

つまり、「くらしサポート」がスムーズに行われるためのコツは、子世帯宅における「親の立ち入りをコントロールすること」にありそうです。



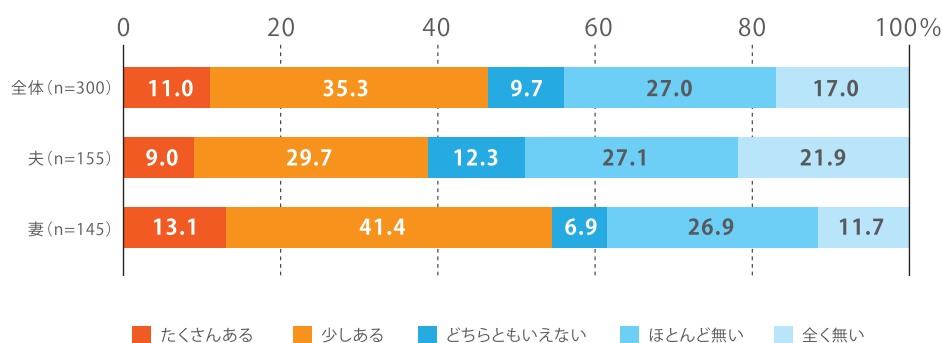
くらしサポートの時、自宅で親に見られたくない場所がありますか（くらしサポート時の親子関係ストレス有無別：子回答）



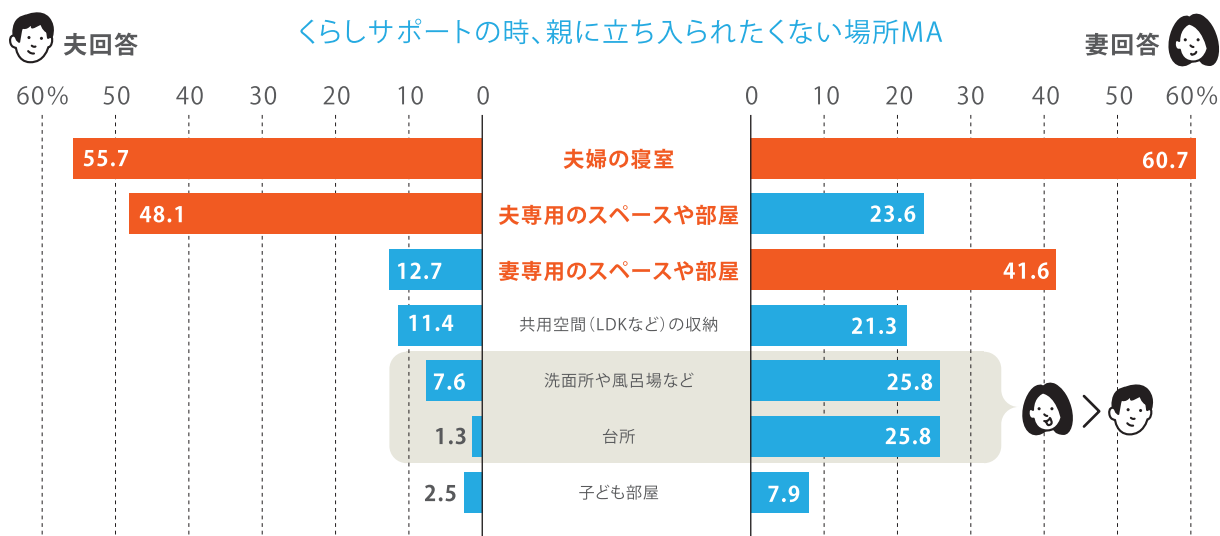
## 妻は、夫より「見られたくない」「立ち入れたくない」場所が多い

「留守の時、親に立ち入れたくない場所はあるか」という設問について、子の回答を男女(夫・妻)別にみると、夫よりも妻の方が見られたくない場所を多く持っている傾向が明らかとなりました。

 留守の時、親に立ち入れたくない場所はありますか(子回答)



では、具体的に妻はどのような場所を「立ち入れたくない」「見られたくない」と思っているのでしょうか。「くらしサポートの時、立ち入れたくない場所」について、男女(夫・妻)別にみると、「夫婦の寝室」「夫・妻、専用の部屋」については男女の別なく、「立ち入れたくない」割合が高くなっています。一方、「洗面所や風呂場」「台所」については、妻の方が夫よりも2割ほど多く「立ち入れたくない」と回答しています。つまり、寝室や個人専用の場所など、プライベートな空間については、夫も妻も「立ち入れたくない」と考えていますが、妻は「洗面所や風呂場」「台所」など「水回り」についても「立ち入れたくない」と考えていることが分かりました。



## 「家事サポート」をうける事が少ない共働き家族は、「水回り」を親に見られたくない

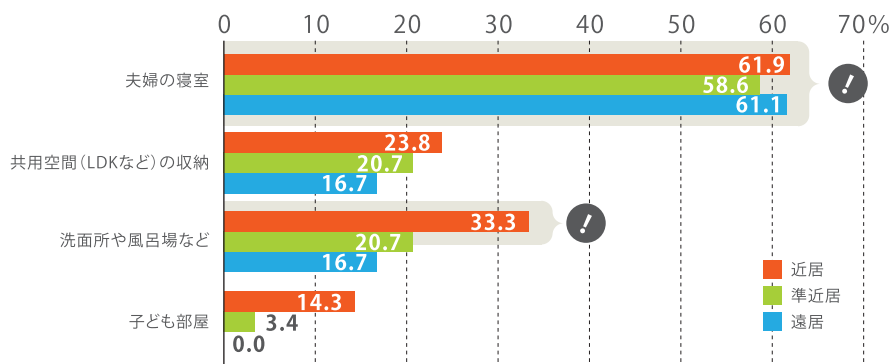
妻は、プライベートな空間に加え「水回り」にも立ち入られたくないと考えているようですが、「暮らしサポート」の状況によって、その気持ちに違いはあるのでしょうか。同じ設問について、「暮らしサポート」をする親の属性別にみていきます。

まず、サポートしてくれるのが「夫の親」か「妻の親」かで見ると、「夫の親」には見られたくない気持ちが強いようです。

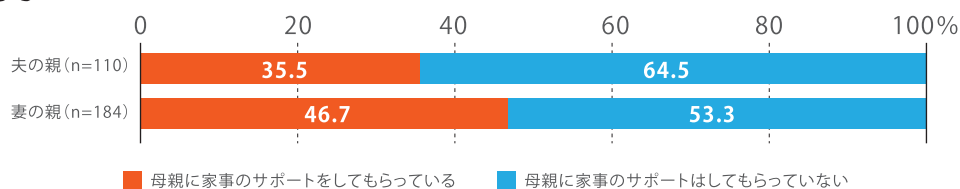
特に75%の子世帯妻は夫親がサポートしてくれる時に見られたくない場所があると回答しています。

親からストレスなくサポートを受けるにはこの辺りに配慮する必要がありそうです。

### 👨👩 暮らしサポートの時、妻が親に見られたくない場所(親子の居住距離別:子回答)



### 👨👩 母親に家事のサポートをしてもらっていますか(夫の親・妻の親別:子回答)

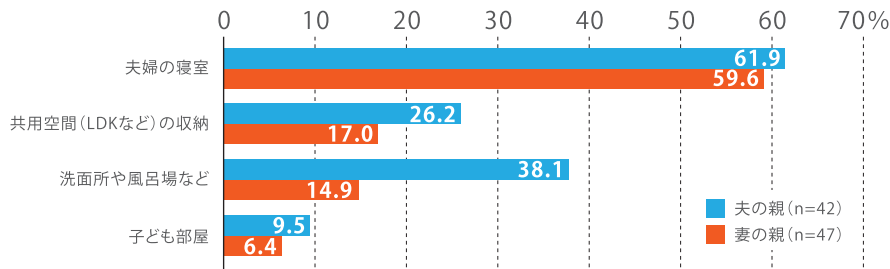


次に、親子の居住距離別にみていきます。居住距離に関係なく、「夫婦の寝室」は「見られたくない」割合が高くなっています。そして、「洗面所や風呂場など」といった「水回り」については、「近居」の方が「遠居」に比べ、「見られたくない」と回答する割合が高くなっていました。

「近居」の場合は、家事の手伝いよりも子育ての手伝いがメインなので、「暮らしサポート」に関係のない場所は見ないで欲しいということでしょう。そして実際に立ち入らないで済んでいると考えられます。しかし、「遠居」の場合は、宿泊が伴うことが多いため水回りを利用してもらわざるを得ません。「見られたくない」とは言えないものの、「洗面所(脱衣所)などでかち合いたくない」などという思いはあるのではないのでしょうか。例えば、義理の親が着替えをしている「洗面所(脱衣所)」をうっかり開けてしまい、気まずい思いをすることが続けば親子ともお互いにストレスを感じるのではないのでしょうか。



くらしサポートの時、妻が親に見られたくない場所(夫の親・妻の親別:子世帯妻回答)



「くらしサポート」において、子がストレスを感じるのは「親に立ち入れたくない、見られたくない場所」が大きな要因となっていることから、「くらしサポート」成功のコツは、子世帯における「親の立ち入りをコントロールする」とことといえそうです。

では、実際にはどのようにしたら良いのでしょうか。子は夫婦ともに、「夫婦の寝室」や「個人の専用空間」は「見られたくない」と思っていることから、まずは夫婦のプライベートスペースには親が立ち入らないようすべきだと考えられます。

さらに、妻は「水回り」も見られたくないと考えていることから、「近居」の場合など「家事サポート」が必要ない場合は、「洗面所や風呂」「台所」など水回りも親が立ち入らないで済むような工夫があると良いと思われます。また、「遠居」の場合には、サポートする親が水回りを使うとしても、親子がストレスを感じないで済むような工夫があるとよいのではないのでしょうか。

4章では、「くらしサポート」における親の気持ちと、子の気持ちを見てきました。

まず、「くらしサポート」は「親が子どもを助けたい」と思う気持ちがあつてこそ成り立っていることが分かりました。そして、「子は親に、感謝の気持ちを示す。親の体調を思いやる」「親は子の暮らしにむやみに踏み込まない」といったように、親子双方に配慮があることによって「くらしサポート」が上手くいくのではないのでしょうか。

一方で、子は、親にどこでも「立ち入られてしまう」「見られてしまう」ということをストレスに感じていることも分かりました。「くらしサポート」が成功するためには、「親の立ち入りをコントロールする」といったハード面の工夫も必要ではないのでしょうか。親からの「くらしサポート」を受ける共働き家族の住まいの場合、誰がサポートするのか、どんなことをサポートしてもらうのか、といった「くらしサポート」のあり方に合わせて、住まいを計画することが大切だと考えられます。





## 第5章

# 「くらしサポート」にみる 親・子・孫の幸せな光景

親世帯と子世帯が別々の家に住んでいると、親と、子、孫が顔を合わせるのが、盆暮れ正月などの長期休暇のみ、ということも珍しくはありません。しかし子世帯が親から「くらしサポート」を受けることによって、自然に交流の機会が増えます。

本章では「くらしサポート」によって、家族の気持ちや行動にどんな変化があったかをみていきます。

5-1

## 親は、「孫との交流」を喜び、「自身の生活に張り合いが生まれた」と感じている

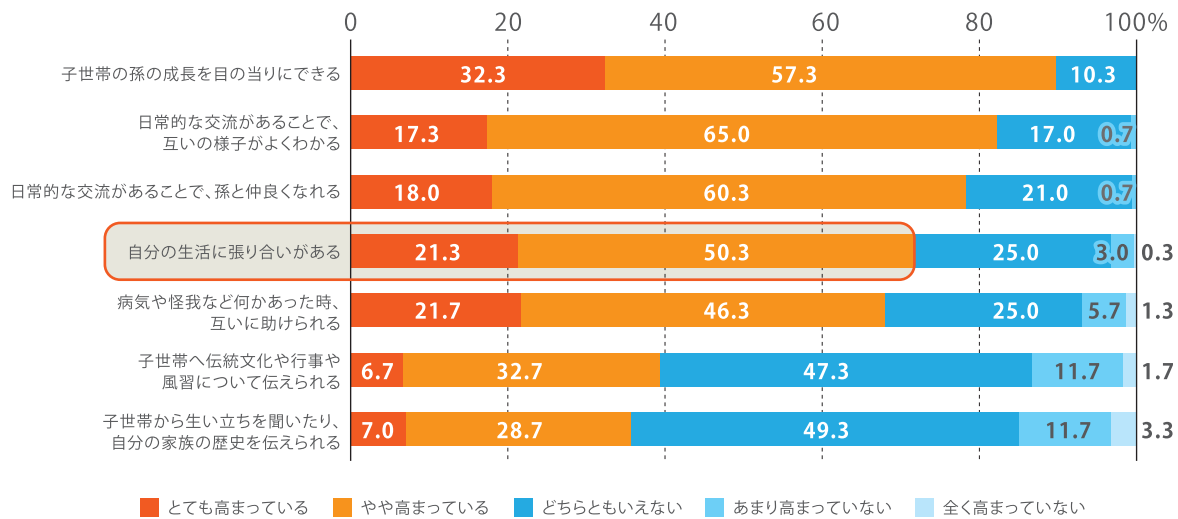
まず、「くらしサポート」をすることによって、どんな気持ちや行動が高まったか、サポートをする側である「親」の変化についてみていきます。

『くらしサポート』にともなう親子孫の交流によって高まった気持ち」という設問について「親」の回答をみると、もっとも高まった気持ちは「孫の成長を目の当りにできる」となっています。そして、「互いの様子がよくわかる」「孫と仲良くなれる」が続きます。また、やるべきことがあることで「自分の生活に張り合いがある」と回答する親も多くいることが分ります。

「頑張る子世帯を助きたい」や「孫に会いたい」気持ちではじまった「くらしサポート」ですが、手伝いをする中で生まれる孫や子との交流によって、親は自分達の生活に様々な好影響があったと感じているようです。



くらしサポートにともなう親子孫の交流によって高まった気持ちMA(親回答)



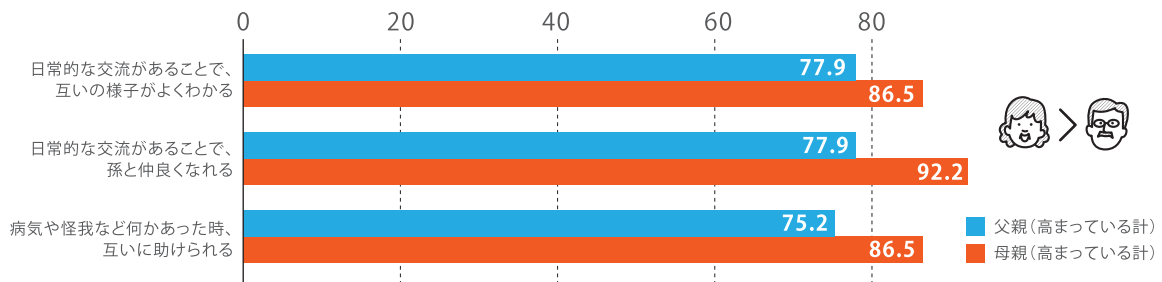
続いて同じ設問を男女(母親、父親)別にみていきます。

「日常的な交流があることで、互いの様子がよくわかる」「日常的な交流があることで、孫と仲良くなれる」「病気や怪我など何かあった時、互いに助けられる」など子世帯との交流に関する設問では、いずれも父親より母親の方が「気持ちが高まっている」と回答しています。父親より「くらしサポート」に関わる機会の多い母親は、「くらしサポート」による子世帯との交流が増えることで、自分に良い影響があったと考えている様です。





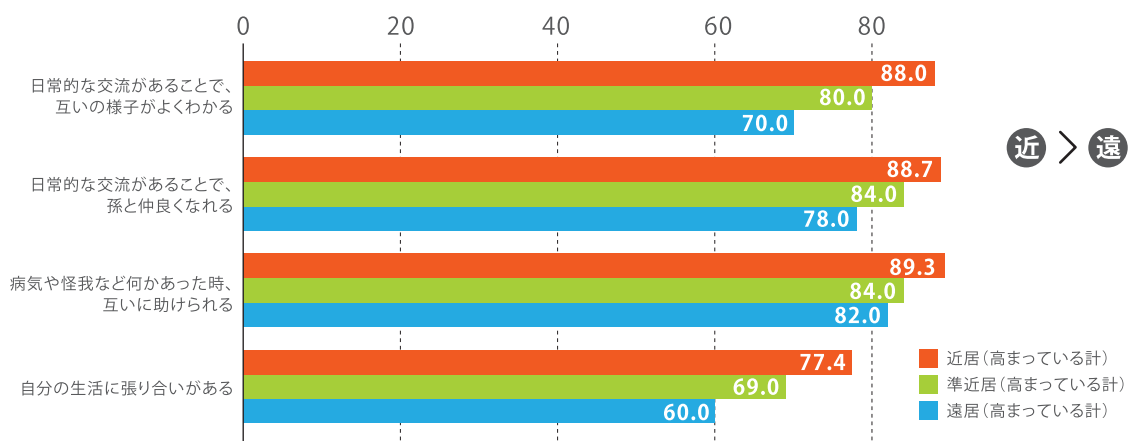
くらしサポートにおける親子孫の交流によって  
高まった気持ちMA(父親・母親別:親回答)



さらに、同じ設問を親子の居住距離別にみていきます。いずれの設問でも「遠居」よりも「近居」の方が、気持ちが高まっていることが分かります。これは、「遠居」よりも「近居」の方が「くらしサポート」の頻度が高く、子世帯と交流する機会も多いからでしょう。親は、交流する機会が多いほど、自分に良い影響があったと感じている様です。



くらしサポートにおける親子孫交流によって  
高まった気持ちMA(親子の居住距離別:親回答)



「くらしサポート」をする親は、サポートをすることで、「孫の成長を目の当りにできる」「互いの様子がよくわかる」と回答しています。そして、やるべきことがある事で「自分の生活に張り合いがある」といった自分への好影響を実感しています。これは、「くらしサポート」をすることにより、頻繁に子世帯と交流することになった結果でしょう。このような気持ちは、父親よりも母親、「遠居」よりも「近居」の方がより高まっており、「くらしサポート」をより頻繁に行っている方が様々な好影響が表れやすいといえます。

5-2

## 子は、「祖父母と孫の交流」を喜び、 将来、親を介護する気持ちも高まっている

次に「くらしサポート」を受ける「子」の側から、サポートを受けることによって「子育て・家事」が助かること以外に、どんな気持ちの変化があったかをみていきます。

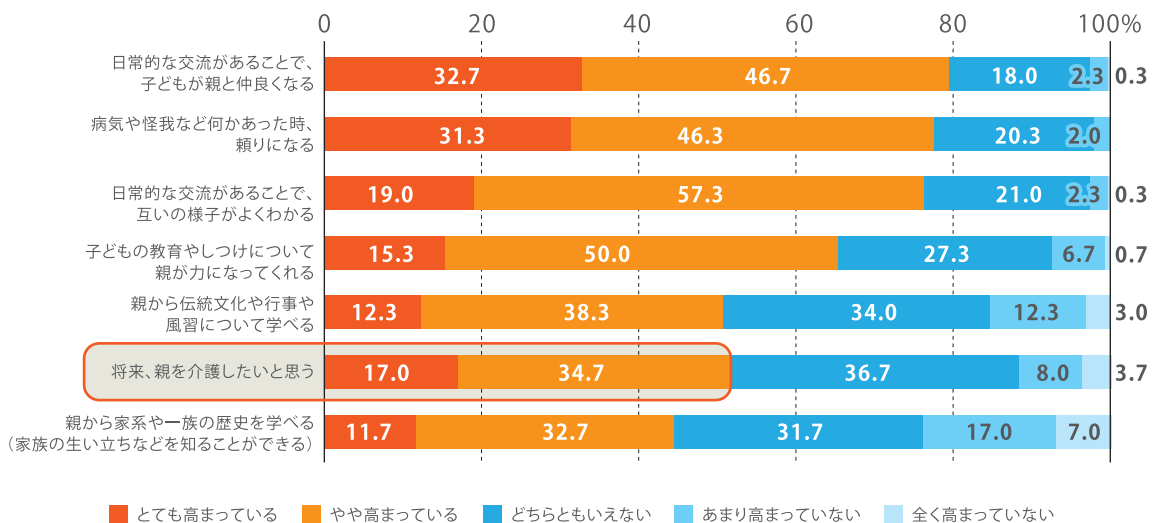
『くらしサポート』にともなう親子孫の交流によって高まった気持ち」という設問について「親」の回答をみると、もっとも高まった気持ちは「子どもと親が仲良くなる」それにつづいて「病気や怪我など何かあった時頼りにできる」「互いの様子がよくわかる」となっています。

子世帯にとって、家庭や仕事で忙しい毎日を乗り越えていくために必要とした親からのサポートでしたが、実際、親からサポートを受けていく中で様々な好影響を実感しているようです。

また、「将来、親を介護したいと思う」という気持ちについてみると、半数以上が「高まっている」と回答しています。「親の介護」は、住まいを建てる時、場所をきめる要因としては低いものとなっていました。しかし、「くらしサポート」を受けることで、親への感謝の気持ちが生まれ、頻繁に交流することで親との心の距離が縮まったことにより、こうした気持ちも高まったのではないのでしょうか。このことから、現在の親から子への「くらしサポート」は、将来、子から親へ「介護」という形で返っていき、本来の「親子協力」につながっていくことが想像されます。



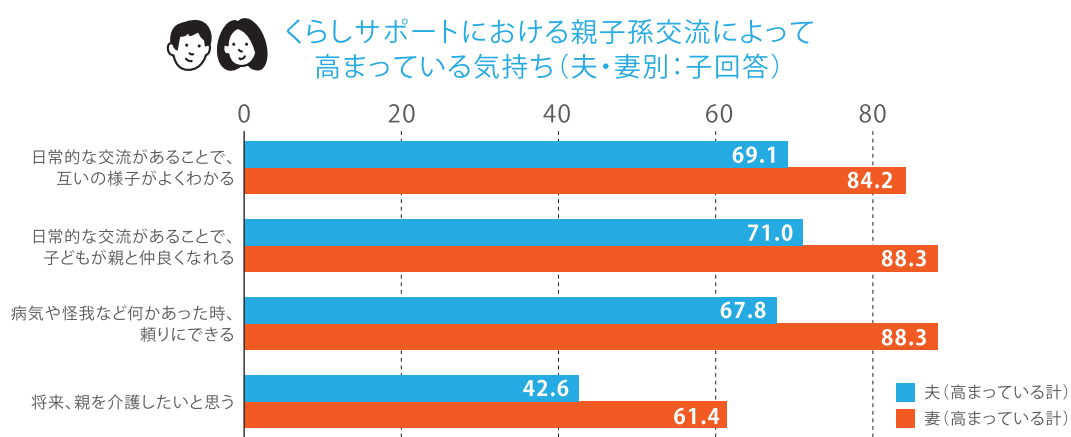
くらしサポートによる親子孫交流で高まっている気持ち(子回答)



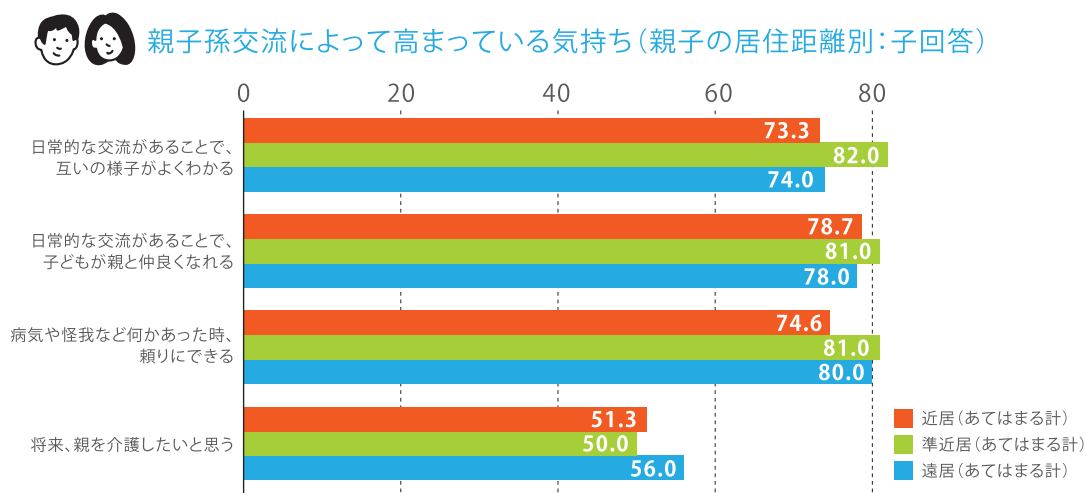
続いて同じ設問を男女(夫、妻)別にみていきます。

「日常的な交流があることで、互いの様子がよくわかる」、「日常的な交流があることで、子どもが親と仲良くなる」、「病気や怪我など何かあった時、頼りにできる」など、日々の交流について、中でも「親(祖父母)と子ども(孫)」の関係に関する設問において、夫より妻の方が「気持ちが高まっている」と回答しています。

夫よりも、妻の方が子育てに関わっていれば、子ども(孫)の変化にも敏感になるでしょう。また、妻の方から親に子育てのお手伝いをお願いする機会も多いため、妻の方が「子ども」に関して「くらしサポート」による好影響を感じやすいのではないのでしょうか。



さらに、同じ設問を親子の居住距離別にみていきます。すると「近居」「遠居」に関わらず、プラスの気持ちや行動が高まっている事が分かりました。親の場合とは違い、子世帯では親子の居住距離に関わらず、気持ちや行動が高まっています。つまり子世帯では「くらしサポート」の頻度に関わらず、好影響を実感しているといえるのではないのでしょうか。





「家事・子育てを助けて欲しい」という思いから「くらしサポート」をお願いした子世帯でしたが、家事や子育てが軽減されるだけでなく、他にも様々な好影響を実感していることが分かりました。特に、「くらしサポート」を受けるなかで、「将来、親の介護をしたいと思う」という気持ちが高まっているのは着目すべき点です。また、こうした好影響が、子世帯では「くらしサポート」の頻度に関係はなく実感されていることが、サポートをする側である「親」との違いでした。

## 5-3

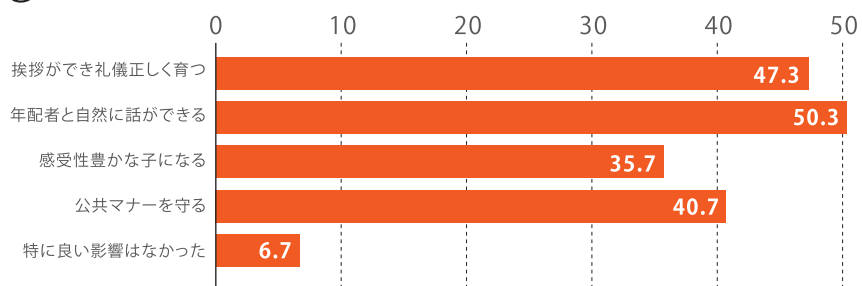
## 「くらしサポート」は、 孫が社会性を身につけるよい機会となる

さらに、「くらしサポート」を受けることにより「孫」にどんな影響があったかについて、親・子、それぞれの回答からみていきます。

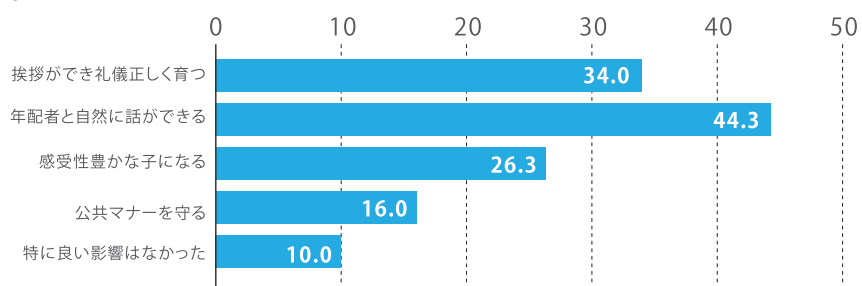
「親・子・孫（3世代）の交流で孫にあった好影響」についてみると、「挨拶ができ礼儀正しく育つ」「年配と自然に話ができる」「感受性が豊かな子になる」「公共マナーを守る」などの回答が、「特に良い影響はなかった」という回答よりも多くなっています。また「親」と「子」を比べると、親（祖父母）の方が孫に好影響があったと感じているようです。



親子孫（3世代）の交流でお孫様にあった好影響（親世帯回答）



親子孫（3世代）の交流で子どもにあった好影響（子世帯回答）



親も子も「くらしサポート」によって、孫に「良い影響があった」と考えていることが分りました。「くらしサポート」による親（祖父母）との日常的な交流によって、親（祖父母）、子（親）だけでなく孫にとっても好影響があったといえそうです。

5-4

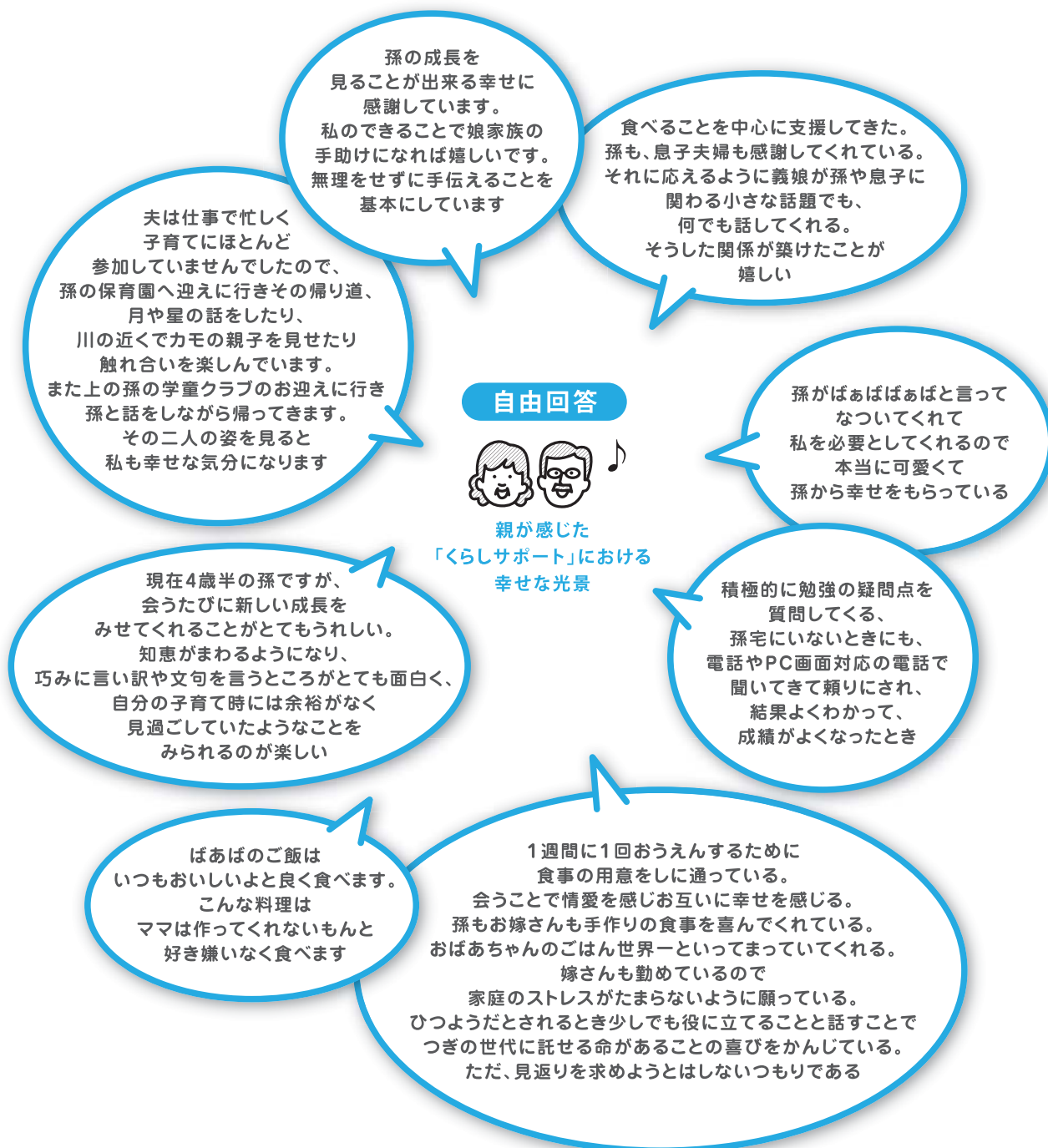
「くらしサポート」から、  
親・子・孫、みんなに笑顔が生まれる

「くらしサポート」による好影響とは、具体的にどのようなものなのでしょう。最後に、「『くらしサポート』における幸せな光景を教えてください」という設問に関して「親」「子」それぞれの自由回答をみていきます。

子の回答では、「社会のきまりや伝統を親が教えてくれるので、子どものしつけに良い影響がある」、「祖父母と孫の触れ合いがほほえしい」などがありました。子は、孫が祖父母から学ぶことをありがたく思い、また、親・子・孫のふれあいが増えることによって生まれる笑顔をうれしく感じている様です。



親子回答では「孫の成長を見られてうれしい、なついてくれてうれしい」という孫との交流のほかに、「勉強を教えたり、保育園の送り迎え」などを祖父が行っている様子もみてとれました。男親が子育てに関わることが少なかった親世代にとっては、新たな体験となっているのではないのでしょうか。





親世帯、子世帯、どちらの自由回答からも、「**祖父母と孫**」が**楽しく、笑顔で過ごしている光景**が浮かんできます。子は、親からの「**くらしサポート**」に感謝し、「**祖父母と孫の交流**」を喜んでいる。そして、親は「**くらしサポート**」にやりがいを感じ、楽しんでいる。  
子世帯の子育てや家事を親が手伝うことから始まった「**くらしサポート**」ですが交流の機会が増えることで、たくさんの笑顔が生まれている様です。

「両親と、その子」だけの世帯で暮らす、という核家族化が広まって久しい今日。しかし、そんな中でも、子どもが両親だけでなく祖父母とも交流があることは、様々な価値観に触れる良い機会となるのではないのでしょうか。

今回のアンケート調査結果からも、祖父母と孫との交流が増えることで、「親・子・孫」に笑顔が増えることが分りました。「くらしサポート」による交流は、お父さんお母さんの家事・子育ての負担が少しでも減るだけでなく、親の生活にハリを与え、子どもの心の成長にも良い影響がある様です。

また、子の「将来親を介護する気持ちが高まる」など、サポートをする側である親にもメリットがありそうです。「くらしサポート」は「親・子・孫」それぞれがハッピーとなる新しい、家族のかたちなのかもしれません。





## 第6章

# 良い家族関係をつくる、 共働き家族のための 「近居プラン」・「遠居プラン」

自宅で親から「暮らしサポート」を受ける共働き家族。第6章では、5章までの分析結果をもとに、そんな共働き家族が、親との良い関係を保つことのできる住まいのプランを「近居」パターン、「遠居」パターン別に紹介します。

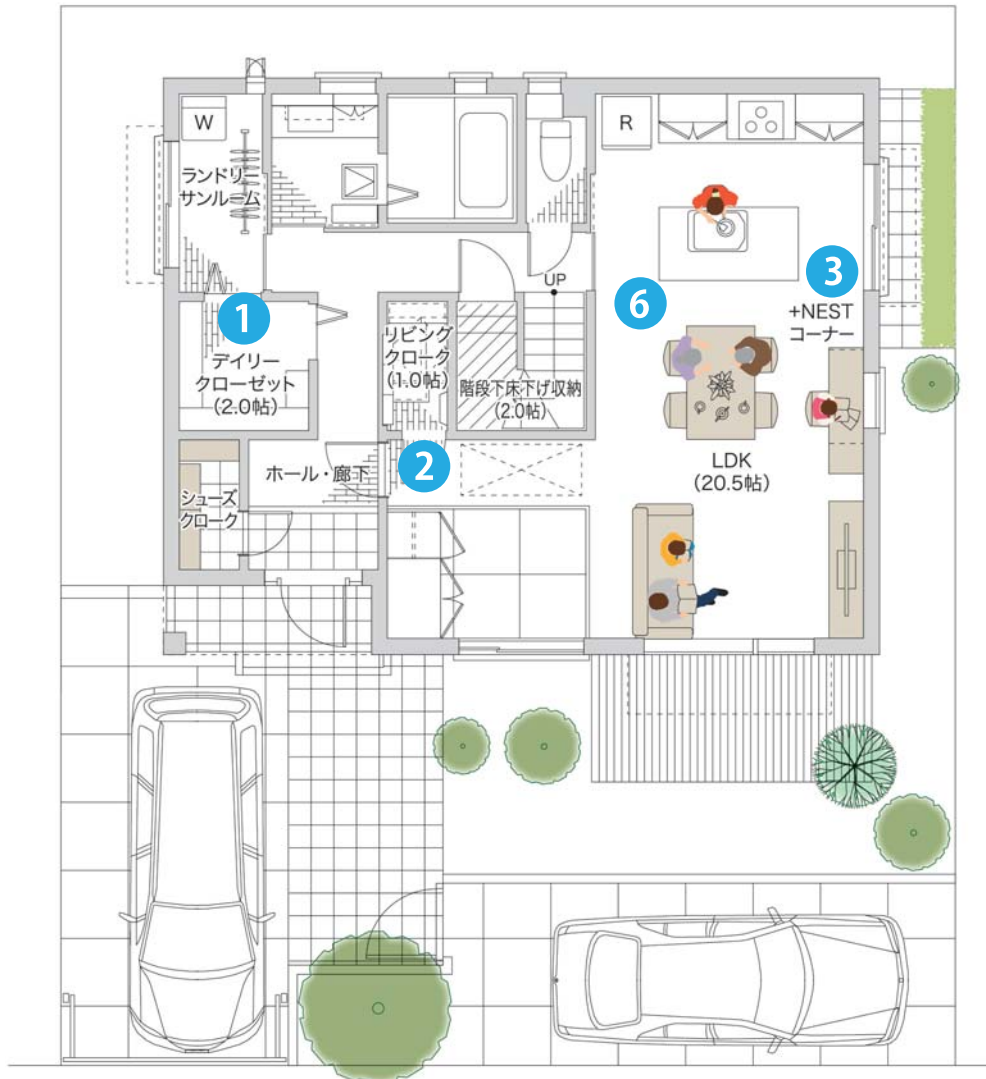


## 近居プラン

## 子育てサポートは1階LDKで。 近くに住む親子コラボライフ

仕事から帰宅するまで、子どもの世話をしてもらいたい。  
でも夫婦のプライバシーはしっかり守りたい。

1F



1



### デイリークローゼット

家族みんなの衣類を一箇所にしまえる大容量の収納スペース。親のサポートの時、子ども部屋に入らずに子どもの着替えを用意できます。

2



### リビングクローク

親がサポート時に使うモノは、気軽に取り出せるように配慮。子どものロッカーとして使うこともでき、散らかりがちなリビングの片付けに一役買ってくれます。

3



### +NEST

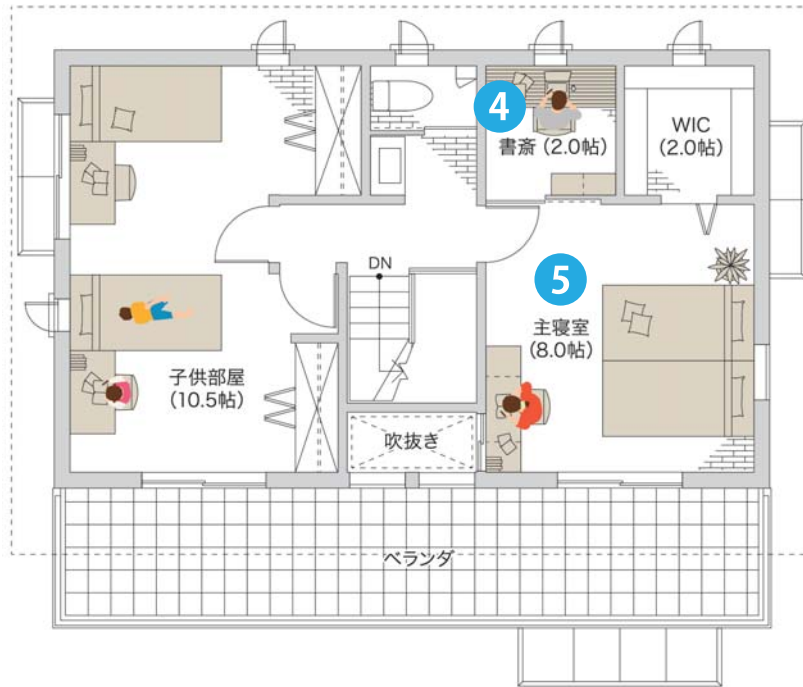
LDKの一角に設けた子ども用のオープンな勉強スペース。親のサポート時や仕事から帰って来た後も、夕食の支度をしながら子どもの勉強を見守ってあげられます。

### 建物面積

1F床面積:68.15㎡(20.6坪) 延床面積:119.99㎡(36.2坪)  
2F床面積:51.84㎡(15.6坪) 建築面積:70.27㎡(21.2坪)



## 2F



親と子の住まいが近い、つまり「近居」の場合は日帰りでの「暮らしサポート」になります。子どもが病気で学校などを休んだ時や、夫と妻が仕事から帰宅するよりも早く子どもが下校する時には、留守宅に親にきてもらい、子どもの面倒をみてもらうことになります。そのため、夫と妻が留守でも困らないように住まいを整えておきたいものです。子どもの世話に必要なものを、親が分りやすいように一か所にまとめておくことができ、留守番中に親が夫婦の寝室や書斎などのプライベート空間には親が立ち入らないで済むようなプランが理想です。

### 4



#### 書 斎

家族団らんも大切だけど、一人で過ごす時間も大事にしたいという人に。親が来ている時でものんびりくつろげる、コンパクトな夫婦のプライベート空間です。

### 5

留守中に親が(2Fの)夫婦のプライベート空間に立ち入る必要がない計画。

### 6

親のサポートがLDKで完結できる計画。親の立ち入る場所をコントロールします。

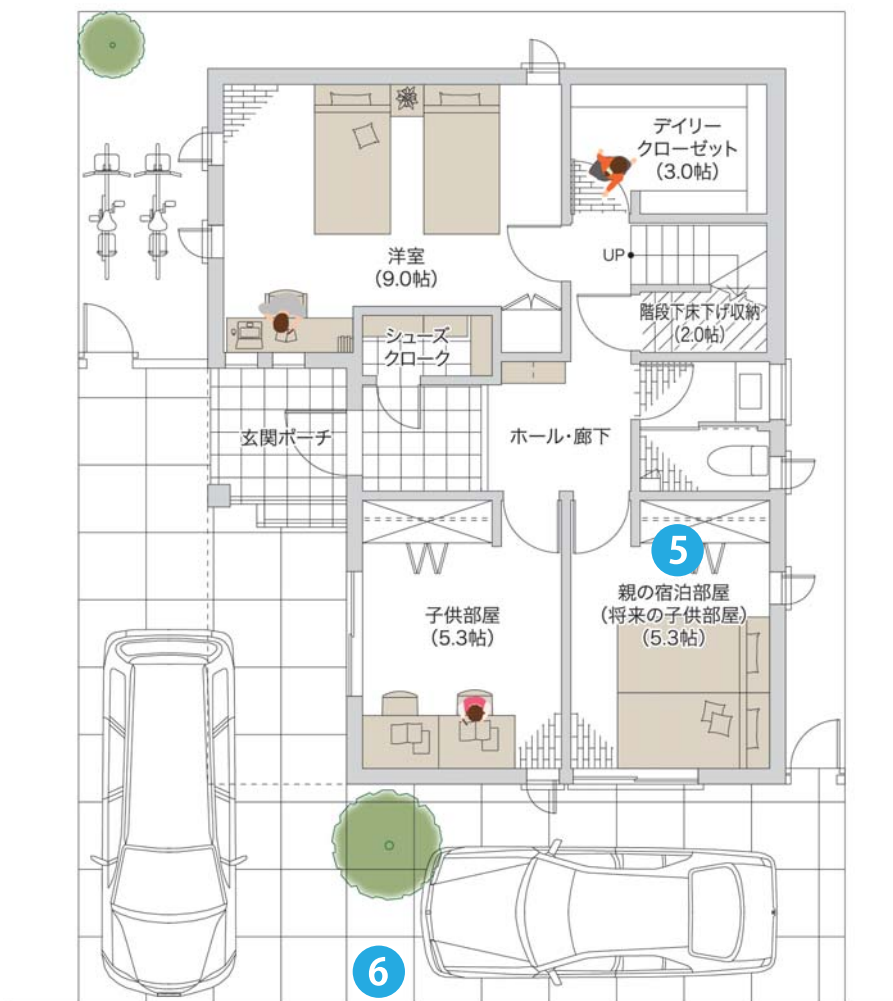


遠居プラン

普段は単世帯。時々二世帯。  
離れて住む親子コラボライフ。

いつもではないけど、時々親を頼りたい。  
来てくれた時は自宅に泊まってほしい。

1F



1



マルチアイランドキッチン

引き出しタイプの収納は、吊戸棚のように高い位置からモノを取り出すことがなくなるほか、使いたいものがひと目で分るので親に手伝ってもらった時にも便利です。

2



ランドリーサンルーム

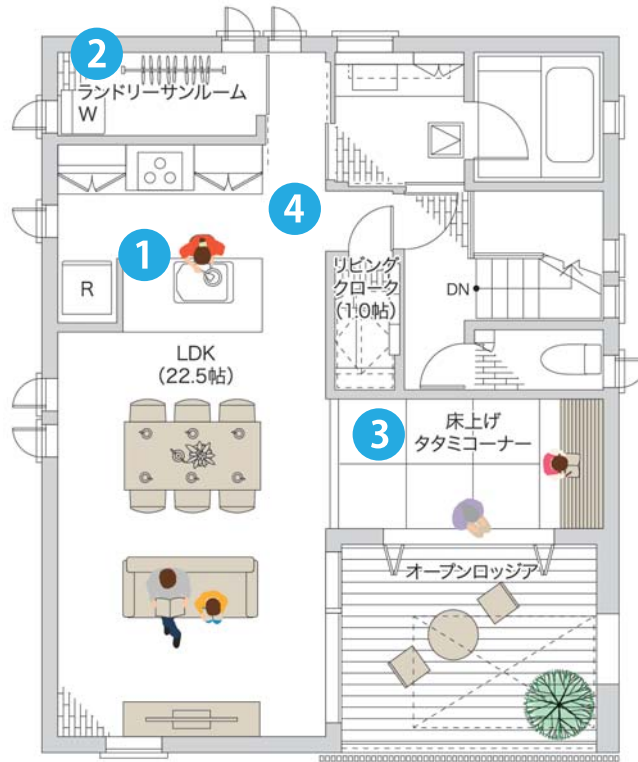
洗う・干す・たたむ、が一箇所でできる洗濯スペース。急な雨で親に取り込みをお願いする時など、洗面所に入らずに済むというメリットもあります。

### 建物面積

1F床面積:68.15㎡(20.6坪) 延床面積:119.99㎡(36.2坪)  
2F床面積:51.85㎡(15.6坪) 建築面積:70.27㎡(21.2坪)



## 2F



親と子の住まいが遠く離れている、つまり「遠居」の場合は、泊りがけでの「くらしサポート」になります。そして、親が子世帯の家に滞在する時間も必然的に長くなり「家事サポート」も増えてきます。「家事はできるだけ自分達でやりたが、親に頼らざるを得ない時は、子の世話だけでなく食事の準備や片づけなどもお願いしたい」というのが子の気持ち。とはいえ、わざわざ遠くから来てもらっているのだから、気兼ねなく泊まって欲しい。そんな思いを叶えるためには、親の宿泊に備えた収納や部屋、プライベート空間を確保する同線、親も使いやすいキッチン、など住まいにも工夫が必要となるでしょう。

3



#### 床あげタタミコーナー

フローリングよりタタミが落ち着くという、親にとってうれしいスペース。子どもと座って遊んだり、寝かしつけの時も便利です。

4

「遠居」のサポートは家事も行われるので、親の家事が楽になる様水回り動線を短くする工夫も必要。

5

親が泊まりでサポートしてくれるので、親の宿泊場所はリビングからも主寝室からも離れた位置にして、互いのプライバシーを守れる様に配慮。

6

「遠居」では、約半数が自家用車で「くらしサポート」に来ているので、親のための駐車スペースを用意。

共働き家族とサポートする親  
その暮らしと意識

---

発行 2016年8月2日  
発行所 旭化成ホームズ株式会社  
暮らしノバージョン研究所  
共働き家族研究所

〒160-8345  
東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル  
電話 03-3344-7858